

九州経済国際化データ2018

Kyushu economic internationalization data



< 概要版 >

2019年4月

経済産業省 九州経済産業局

九州経済国際化データ2018(ポイント①)

アジア度

- 「輸入額」を除く5項目(「輸出額」「海外進出企業件数」「外国人入国者数」「国際航空路線数」「姉妹提携自治体数」)について、九州の「アジア度」は全国よりも高く、九州経済とアジアとの結びつきの強さがうかがえる。

貿易(「九州経済国際化データ2018【貿易編】」で公表済み)

○九州の貿易額等

- 2017年の九州の貿易額は、輸出入額ともに前年より増加、輸出額においては過去最高(※) ※1979年以降、以下同じ
- 九州の輸出額の全国比も過去最高
輸出額 **6兆8,410億円**(前年比 21.0%増、全国比 8.7%、全国 78兆2,865億円、前年比 11.8%増)
輸入額 **5兆2,788億円**(前年比 18.2%増、全国比 7.0%、全国 75兆3,792億円、前年比 14.1%増)
- 輸出から輸入を引いた貿易収支は+1兆5,622億円で、過去最高であるとともに、3年連続の貿易黒字(全国は2年連続の黒字)

○九州と各国の貿易

- 輸出相手国・地域としては、中国への輸出額が最も多く、次いで米国、韓国、台湾、香港となっており、アジアの国・地域が全体の6割弱
- 輸入相手国・地域としては、中国からの輸入額が最も多く、次いでオーストラリア、サウジアラビア、米国、台湾

○九州の産業別貿易

- 2017年の九州から世界への輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、半導体等電子部品、船舶類、半導体等製造装置、鉄鋼のフラットロール製品となっており、上位5品目で全体の5割超
- 一方、九州の世界からの輸入品目は、輸入額の大きい順に、原油及び粗油、石炭、石油ガス類、半導体等電子部品、非鉄金属鉱となっており、鉱物性燃料や原材料が上位で全体の4割超

九州経済国際化データ2017(ポイント②)

九州企業の海外展開

- 2017年までの九州企業の海外進出累計件数は、1,025件で1,000件を超えた。アジアが798件と8割弱を占めており、中でも中国(364件)は全体の3分の1を超えているものの、近年進出件数は減ってきている。一方、ASEAN地域(257件)は近年進出件数が増えてきており、全体の4分の1を超えた。さらに、直近5年では47%と約5割を占める。
- このうち2017年の新規海外進出件数は20件で、前年(18件)より増加した。

海外との人的交流

- 2017年に九州へ入国した外国人数(※1)は494.2万人(前年比32.8%増、全国比16.5%)と近年大きく増加している。
- 国籍別では、韓国が44.5%と最も多く、次いで中国、台湾、香港等となっており、アジアからの入国者が97.3%とほとんどを占めている。また、九州は全国に比べてアジアからの入国者数の割合が高い。
- 近年、九州(下関港を含む)への外国クルーズ船の寄港回数も増加傾向にあり、2017年は957回(全国2,013件、全国比47.5%)と前年の33.8%増加、特に、博多港は前年に引き続き全国第1位となった。
- 九州への外国クルーズ船による「船舶観光上陸外国人数」は、68.8%と**全国の7割弱**を占める。
- 2017年の九州の外国人労働者数は71,894人で前年比21.7%増と大きく増加した。
- 産業別では、製造業が27.9%と最も多く、次いで卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業等となっている。
- 2017年の九州の留学生数(※2)は26,398人(前年比9.5%増、全国比9.9%)で、増加傾向である。
- 国籍別では中国が28.4%と最も多く、次いでベトナム(25.8%)、ネパール(18.7%)等となっており、アジアからの留学生が9割以上を占めている。

※1: 入国外国人数は、一般上陸の許可を受けた外国人数及び船舶観光上陸の許可を受けた外国人数の総数

※2: 留学生数は、高等教育機関及び日本語教育機関における総数

トピックス

【熊本地震からの回復状況】

- 輸出動向
 - 主要品目及び九州輸出総額について、地震の発生前の2015年と発生後の2017年を比べてみると、2017年の主要品目及び九州輸出総額ともに輸出額が10%以上上回った。特に、九州における生産拠点が被災した二輪自動車類については、2016年は前年比14.4%減となったが、2017年は2015年比18.2%と増加した。
- 観光
 - 外国人延べ宿泊者数について、地震の発生前の2015年と発生後の2017年を比べてみると、熊本県は13.0%、大分県は79.0%と増加した。また、九州全体でも35.9%と増加した。

九州経済国際化データ2018 目次

◎巻頭特集

九州企業のグローバル展開状況について

第1部 九州の国際化についての基礎データ

第1章 九州の特徴	1
第2章 九州の貿易(*)	6
第3章 九州の対外投資・対内投資	20
第4章 九州の海外との人的交流	29

第2部 九州と各国・地域の経済関係(*)

第1章 九州と韓国の経済関係	43
第2章 九州と中国の経済関係	50
第3章 九州と環黄海経済圏の経済関係	57
第4章 九州と台湾の経済関係	62
第5章 九州と香港の経済関係	68
第6章 九州とASEANの経済関係	74
第7章 九州とベトナムの経済関係	85
第8章 九州とタイの経済関係	91
第9章 九州とシンガポールの経済関係	97
第10章 九州とマレーシアの経済関係	103
第11章 九州とフィリピンの経済関係	109
第12章 九州とインドネシアの経済関係	115
第13章 九州とミャンマーの経済関係	121
第14章 九州とインドの経済関係	127
第15章 九州とEUの経済関係 (英国を含む)	133
第16章 九州とロシアの経済関係	146
第17章 九州と米国の経済関係	152
第18章 九州とオーストラリアの経済関係	158

第3部 分野別に見た九州の主要産業(*)

第1章 自動車・自動車の部分品	164
第2章 半導体等電子部品	168
第3章 鉄鋼	170
第4章 船舶類	172
第5章 食料品	173
第6章 農林水産物及び加工品	176
第7章 鉱物性燃料	189

◎トピックス編

1. 九州の輸出における熊本地震の影響からの回復状況について(P15)
2. 主要経済圏別の輸出額・輸入額の推移について(P19)
3. 外資系企業が日本で事業展開する上での魅力と阻害要因(p29)
4. 観光について(p31)
5. 九州の観光における熊本地震からの回復状況について(p34)
6. 韓国からの「自動車の部分品」の輸出について(p49)
7. 九州から中国への自動車の輸出について(p56)
8. 環黄海経済・技術交流会議について(p58)
9. 九州と全国のASEAN度(p84)

◎巻末資料

★別冊資料(*)

注) *については「九州経済国際化データ2018【貿易編】」に既掲載(2018年8月29日公表)。なお、第2部各章の「九州企業の当該国への進出件数に係るデータ」は今回掲載。(以下、同様)

九州経済国際化データ2018 コンテンツ

アジア度

.....p1

- ・九州の特徴(アジアとの経済交流) p1

貿易*

.....p2

- ・九州の貿易(総括) p2
- ・九州の品目別貿易動向 p3
- ・九州の国・地域別貿易動向 p4
- ・九州の貿易収支 p5
- ・九州と各国(韓国、中国、台湾、香港、ASEAN、EU、米国)との貿易動向 p6～14
- ・九州の産業別(自動車、半導体等電子部品、食料品、鉱物性燃料)貿易動向 p15～18

九州企業の海外進出

.....p19

- ・九州企業の海外進出 p19～20

海外との人的交流

.....p21

- ・九州への外国人入国者 p21～22
- 九州の外国人労働者 p23
- ・九州の留学生 p24

トピックス

.....p25

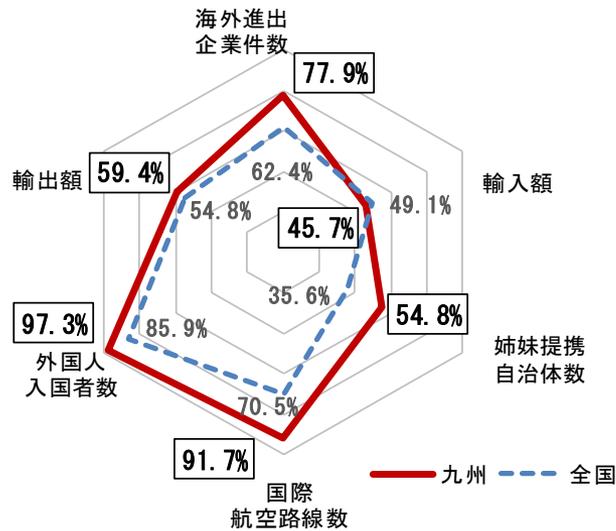
- ・熊本地震の影響からの回復状況(輸出動向) p25
- ・熊本地震の影響からの回復状況(観光関連) p26

九州の特徴(アジアとの経済交流)

九州とアジア地域の経済交流の深まりを見るため、「輸出額」、「輸入額」、「海外進出企業件数」、「外国人入国者数」、「国際航空路線数」、「姉妹提携自治体数」の6項目を取り上げ、経済活動全体に占める対アジアの割合を「アジア度」として算出。

2017年の九州と全国の「アジア度」を比較すると、「輸入額」を除いた5項目について、九州の「アジア度」が全国よりも高く、九州経済はアジアとの結びつきが強いことがうかがえる。

九州と全国のアジア度の比較



項目	単位	九州			全国		
		アジア	世界	アジア度	アジア	世界	アジア度
海外進出企業件数	件	798	1,025	77.9%	19,107	30,644	62.4%
輸入額	億円	24,132	52,788	45.7%	370,261	753,792	49.1%
姉妹都市提携自治体数	件	103	188	54.8%	617	1,734	35.6%
国際航空路線数	路線	33	36	91.7%	253	359	70.5%
外国人入国者数	人	4,810,384	4,941,527	97.3%	25,672,347	29,878,081	85.9%
輸出額	億円	40,637	68,410	59.4%	429,200	782,865	54.8%

備考:「輸入額」「外国人入国者数」「輸出額」は2017年1年間の数値、「海外進出企業件数」「姉妹提携自治体数」は2017年までの累計件数、「国際航空路線数」は2017年時点で確認できるデータを掲載。

出所:財務省「貿易統計」、(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出2017」、東洋経済新報社「海外進出企業総覧2018(国別編)」、法務省「出入国管理統計年報」、JTBパブリッシング「JTB時刻表2018年3月号」、(一財)自治体国際化協会ホームページより九州経済産業局作成。

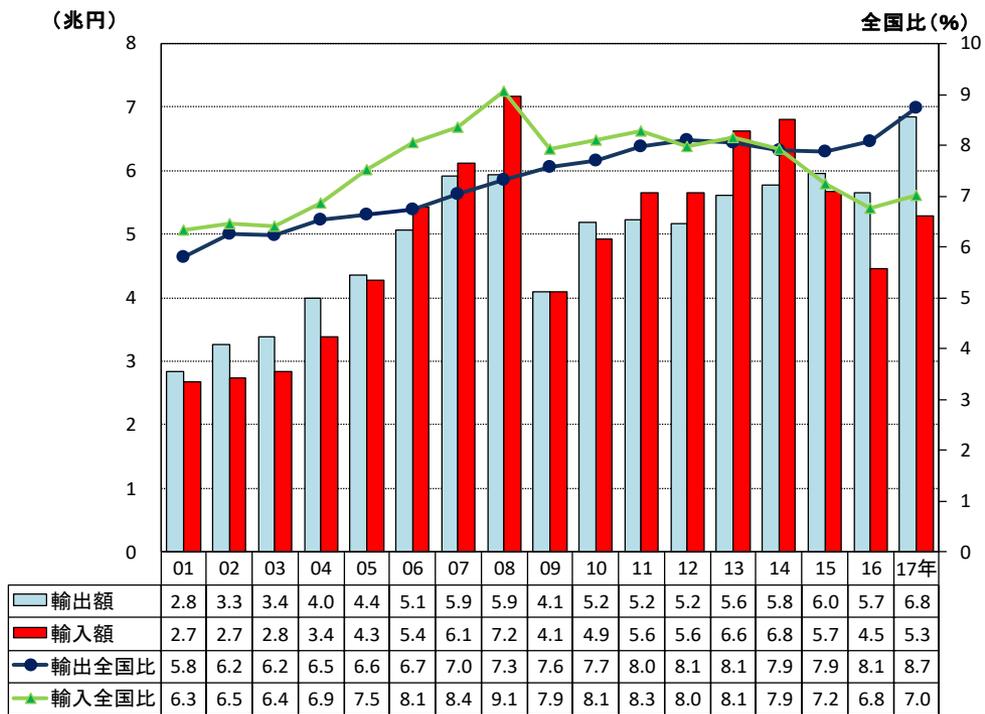
九州の貿易(総括)*

- 2017年の九州の貿易額は、輸出が6兆8,410億円(前年比21.0%増)で、輸入は5兆2,788億円(前年比18.2%増)で、ともに前年より増加した。
- 輸出では、米国向け(寄与度: +6.2%)、韓国向け(同+4.9%)、中国向け(同+3.6%)、香港向け(同+1.7%)などの輸出額が増加した。一方、サウジアラビア向け(同▲0.7%)、スペイン向け(同▲0.1%)などの輸出額は減少した。
- 輸入では、オーストラリア(同+3.0%)、米国(同+2.0%)、アラブ首長国連邦(同+1.5%)、台湾(同+1.5%)などの輸入額が増加した。一方、メキシコ(同▲0.4%)、ブラジル(同▲0.2%)などの輸入額は減少した。
- 九州の貿易額が全国に占める割合は、輸出が8.7%で、輸入は7.0%で、ともに前年より増加した。

★2017年の九州の輸出額及び貿易収支は過去最高(※)★
 2017年の九州の輸出額及び輸出額の全国に占める割合(全国比)ともに過去最高となった。また、輸出額から輸入額を引いた貿易収支も過去最高となった。
 ※1979年以降、以下同じ。

※寄与度とは、
 貿易統計において(前期との差額)÷(前期の輸出または輸入総額)で算出され、当該項目の増加が輸出または輸入の総額にどれくらい寄与するかを示す。単位は%。

九州の対世界貿易額と全国比の推移

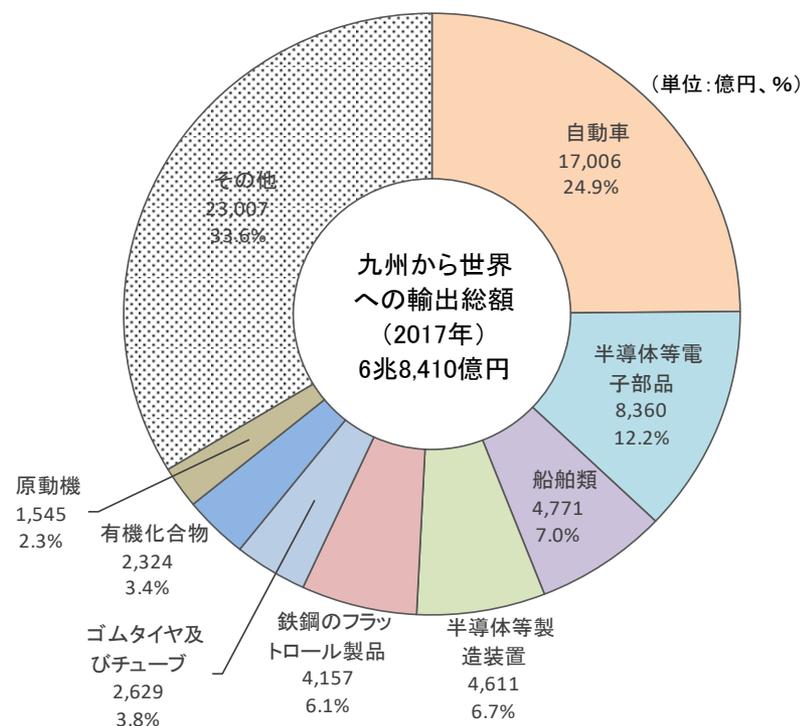


九州の品目別貿易動向*

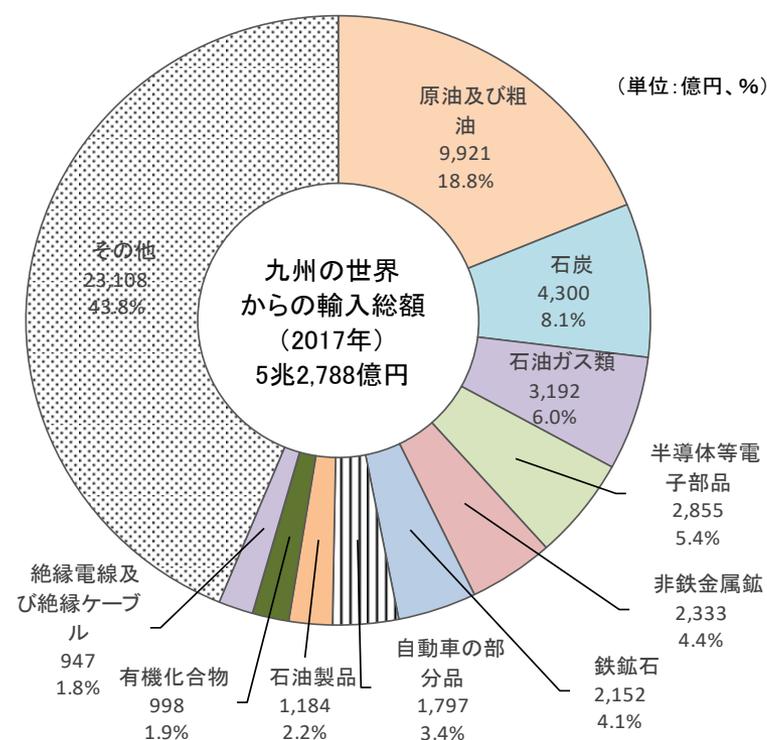
○2017年の九州から世界への輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、半導体等電子部品、船舶類、半導体等製造装置、鉄鋼のフラットロール製品であり、この上位5品目で輸出額全体の5割を超えた。輸出額の増加に寄与した主な品目は、自動車(寄与度: +6.5%)、半導体等電子部品(同+3.1%)等で、一方、減少では、軌条及びその他の鉄道線路建設材(同▲0.1%)、船舶類(同▲0.04%)等であった。

○2017年の九州の世界からの輸入品目は、輸入額が多い順に、原油及び粗油、石炭、石油ガス類、半導体等電子部品、非鉄金属鉱となっており、鉱物性燃料と原材料が上位を占め、全体の4割を超えた。輸入額の増加に寄与した主な品目は、原油及び粗油(寄与度: +5.7%)、石炭(同+2.9%)等で、一方、減少では、非鉄金属鉱(寄与度: ▲1.1%)、ガラス及び同製品(同▲0.1%)等であった。

九州から世界への輸出品目(小分類)



九州の世界からの輸入品目(小分類)



寄与度(増加分): 自動車(+6.5%)、半導体等電子部品(+3.1%)等
 寄与度(減少分): 軌条及びその他の鉄道線路建設材(▲0.1%)、船舶類(▲0.04%)等

寄与度(増加分): 原油及び粗油(+5.7%)、石炭(+2.9%)等
 寄与度(減少分): 非鉄金属鉱(▲1.1%)、ガラス及び同製品(▲0.1%)等

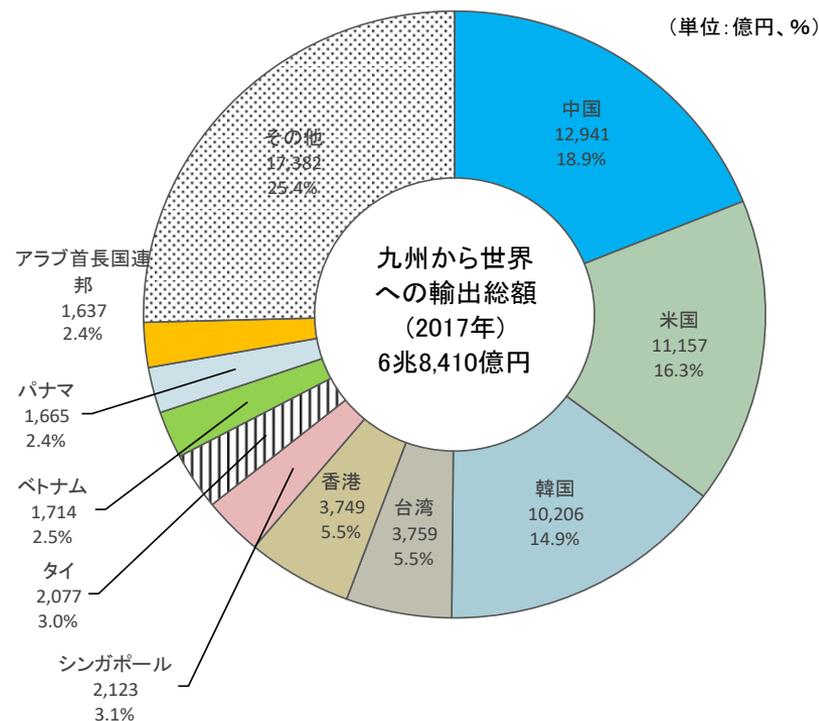
出所: 財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成

※寄与度とは、貿易統計において(前期との差額)÷(前期の輸出または輸入総額)で算出され、当該項目の増減が輸出または輸入の総額の変動にどれくらい影響するかを示す。単位は%。なお、寄与度は、増加分・減少分ともに上位2品目を掲載。以下同じ。

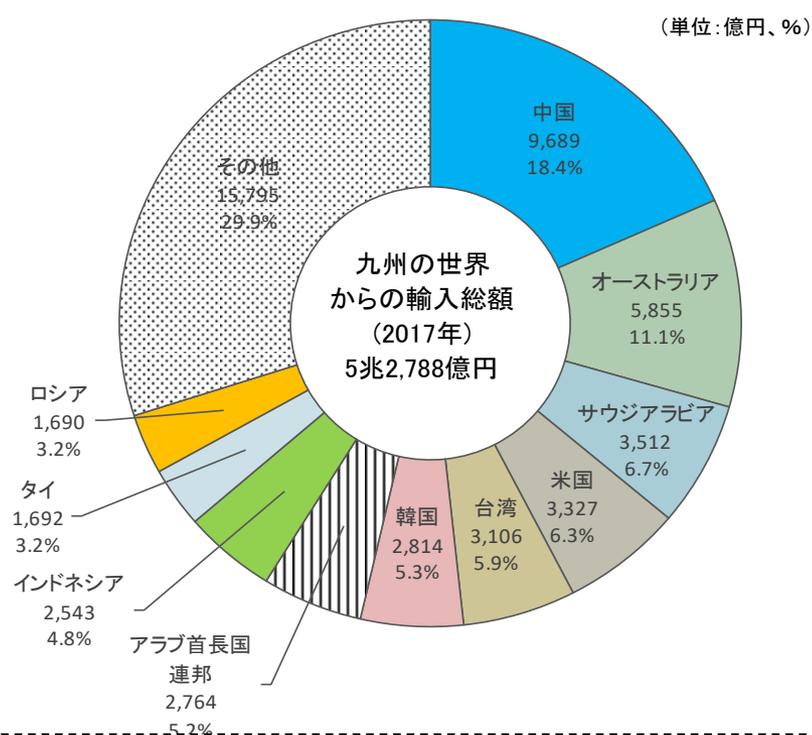
九州の国・地域別貿易動向*

- 2017年の九州の最大の貿易相手国は中国であり、次いで米国、韓国であった。
- 輸出相手国・地域としては、中国への輸出額が最も多く、次いで米国、韓国、台湾、香港等となっており、アジアの国・地域が全体の6割弱であった。
- 米国向け(寄与度: +6.2%)、韓国向け(同+4.9%)、中国向け(同+3.6%)香港向け(同+1.7%)などの輸出額が増加した。一方、サウジアラビア向け(同▲0.7%)、スペイン向け(同▲0.1%)などの輸出額は減少した。
- 輸入相手国・地域としては、中国からの輸入額が最も多く、次いでオーストラリア、サウジアラビア、米国、台湾であった。
- オーストラリア(同+3.0%)、米国(同+2.0%)、アラブ首長国連邦(同+1.5%)、台湾(同1.5%)などの輸入額が増加した。一方、メキシコ(同▲0.4%)、ブラジル(同▲0.2%)などの輸入額は減少した。

九州の輸出相手国・地域



九州の輸入相手国・地域



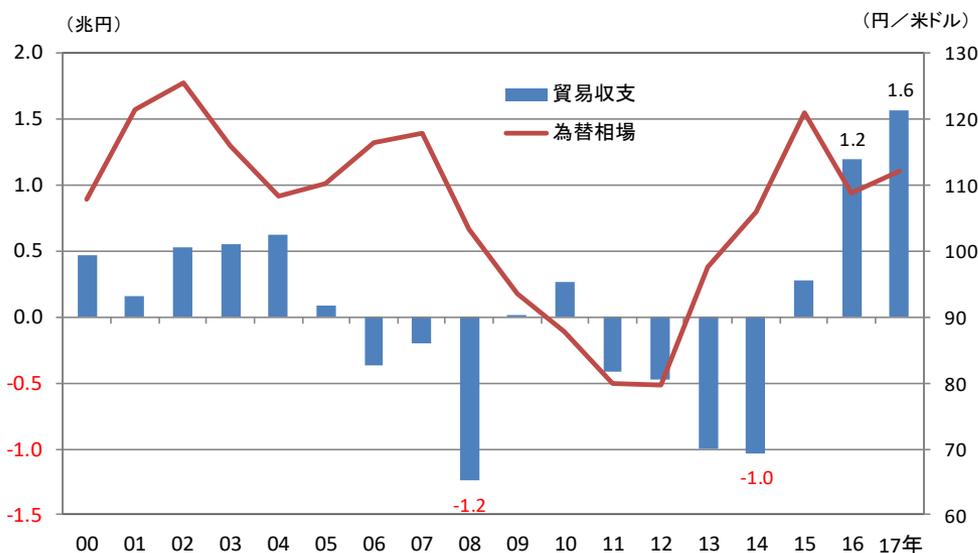
寄与度 (増加分) : 米国 (+6.2%)、韓国 (+4.9%)、中国 (+3.6%)、香港 (+1.7%) 等
 寄与度 (減少分) : サウジアラビア (▲0.7%)、スペイン (▲0.1%) 等

寄与度 (増加分) : オーストラリア (+3.0%)、米国 (+2.0%)、アラブ首長国連邦 (+1.5%)、台湾 (+1.5%) 等
 寄与度 (減少分) : メキシコ (▲0.4%)、ブラジル (▲0.2%) 等

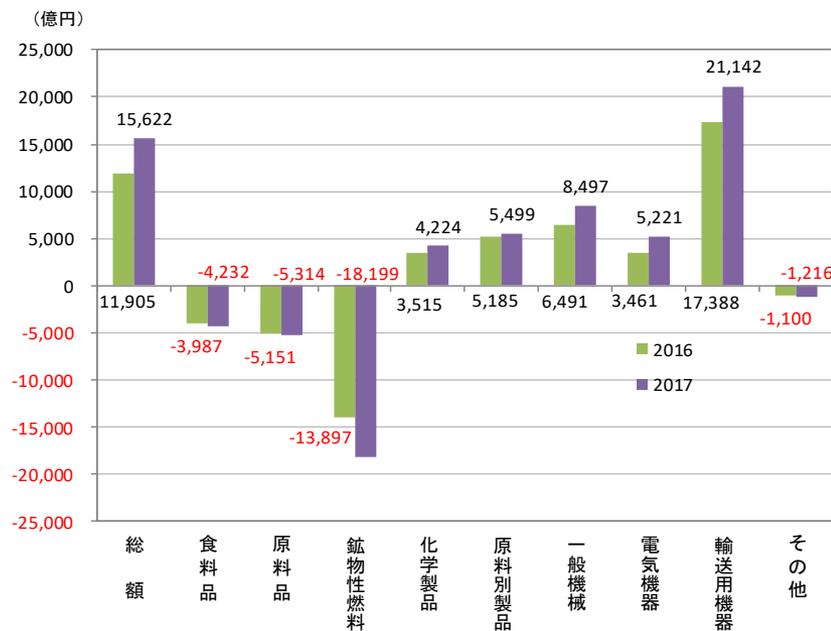
九州の貿易収支*

- 2017年の九州の貿易収支は+1兆5,622億円と過去最高で3年連続の貿易黒字となった。
- 品目別では、前年比べて鉱物性燃料の輸入超過額が増加したものの、輸送用機器や一般機械、電気機器等の輸出超過額が大きかったため、九州の貿易収支は貿易黒字となった。
- 国別の輸出超過額では、米国が7,830億円で最も多く、次が韓国の7,393億円、香港の3,690億円であった。一方、輸入超過額では、オーストラリアが4,856億円で最も多く、次がサウジアラビアの3,253億円、インドネシアの1,676億円であった。

九州の貿易収支と為替相場(円・米ドル)の推移



九州の品目別貿易収支(2016-2017年)



九州の相手国・地域別貿易収支(2017年)

(単位:億円)

相手国・地域	輸出超過額	相手国・地域	輸入超過額
米国	7,830	オーストラリア	▲ 4,856
韓国	7,393	サウジアラビア	▲ 3,253
香港	3,690	インドネシア	▲ 1,676
中国	3,253	ロシア	▲ 1,304
シンガポール	1,943	アラブ首長国連邦	▲ 1,127

九州の貿易収支額(2017年) 1兆5,622億円

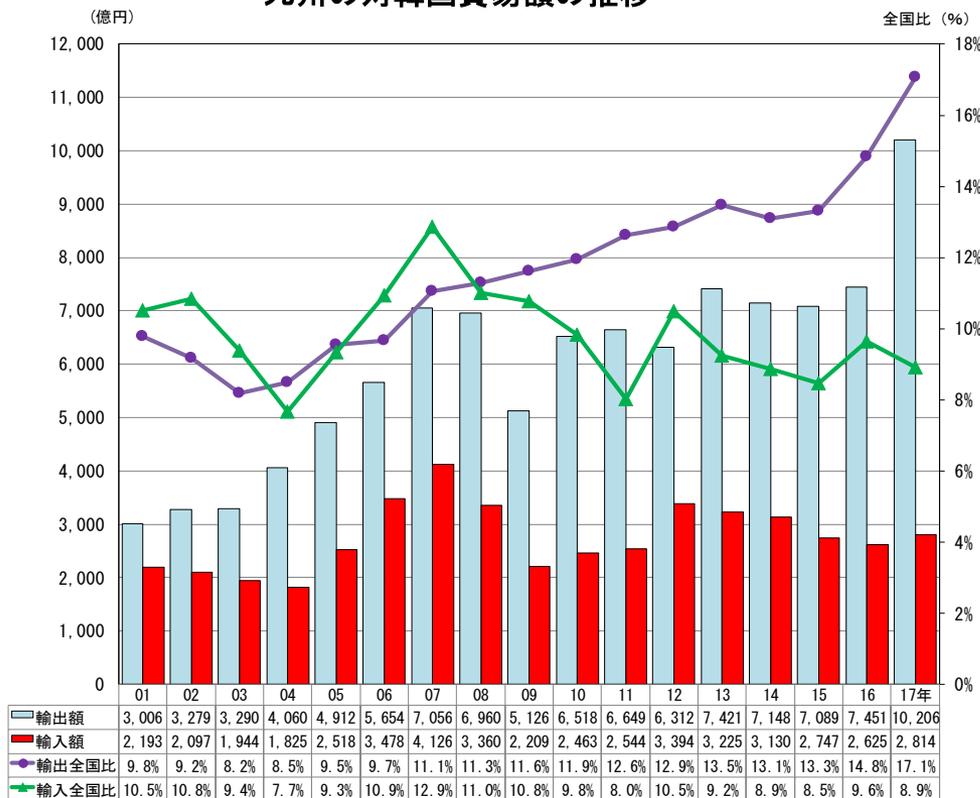
九州と韓国の貿易動向*

○2017年の九州の対韓国貿易額は、輸出が1兆206億円(前年比37.0%増)で前年より増加し、2年連続の増加となった。一方、輸入も2,814億円(前年比7.2%増)で前年より増加し、5年ぶりに増加へ転じた。

○輸出品目は、輸出額が多い順に、半導体等製造装置、半導体等電子部品、鉄鋼のフラットロール製品であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、半導体等製造装置(寄与度: +15.6%)、半導体等電子部品(同+9.8%)等であった。一方、減少では、原動機(同▲0.9%)、銅及び同合金(同▲0.5%)等であった。

○輸入品目は、輸入額が多い順に、鉄鋼のフラットロール製品、自動車の部分品、石油製品であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、鉄鋼のフラットロール製品(寄与度: +4.8%)、鉄鋼製構造物及び同建設材(同+2.6%)等であった。一方、減少では、石油製品(同▲3.1%)、半導体等電子部品(同▲1.1%)等であった。

九州の対韓国貿易額の推移



九州の主な対韓国輸出入品目

主な輸出品目	輸出額(億円)	構成比(%)
半導体等製造装置	2,868	28.1%
半導体等電子部品	2,191	21.5%
鉄鋼のフラットロール製品	635	6.2%
自動車	506	5.0%
有機化合物	467	4.6%
科学光学機器	325	3.2%
鉄鋼くず	216	2.1%
電気回路等の機器	92	0.9%
映像機器	81	0.8%
電気計測機器	81	0.8%
その他	2,745	26.9%
総額	10,206	100%

寄与度(増加分): 半導体等製造装置(+15.6%)、半導体等電子部品(+9.8%)等
 寄与度(減少分): 原動機(▲0.9%)、銅及び同合金(▲0.5%)等

主な輸入品目	輸入額(億円)	構成比(%)
鉄鋼のフラットロール製品	393	14.0%
自動車の部分品	254	9.0%
石油製品	134	4.8%
鉄鋼製構造物及び同建設材	128	4.5%
半導体等電子部品	121	4.3%
有機化合物	118	4.2%
半導体等製造装置	86	3.1%
原動機	77	2.7%
野菜	64	2.3%
抗生物質製剤	54	1.9%
その他	1,384	49.2%
総額	2,814	100%

寄与度(増加分): 鉄鋼のフラットロール製品(+4.8%)、鉄鋼製構造物及び同建設材(+2.6%)等
 寄与度(減少分): 石油製品(▲3.1%)、半導体等電子部品(▲1.1%)等

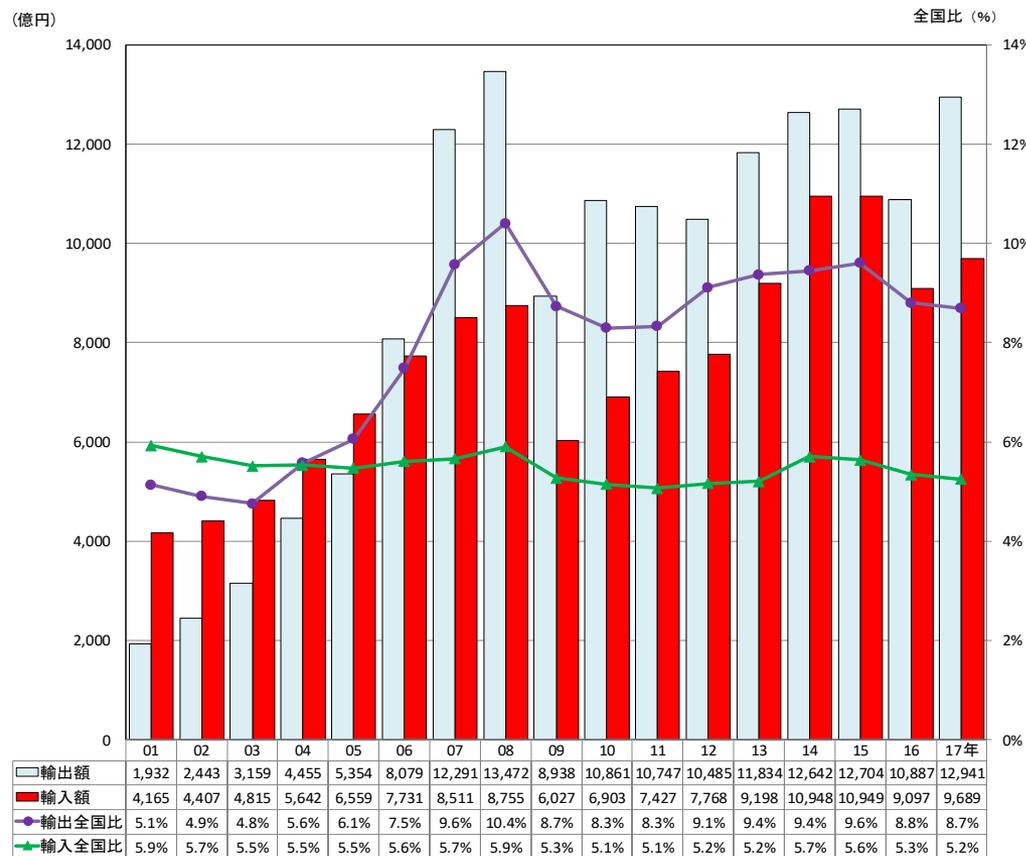
九州と中国の貿易動向*

○2017年の九州の対中国貿易額は、輸出が1兆2,941億円(前年比18.9%増)で前年より増加した。一方、輸入も9,689億円(前年比6.5%増)で前年より増加した。

○輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、半導体等製造装置、有機化合物であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、自動車(寄与度: +5.3%)、半導体等製造装置(同+4.8%)等であった。一方、減少では、銅及び同合金(同▲1.1%)、半導体等電子部品(同▲0.5%)等であった。

○輸入品目は、輸入額が多い順に、自動車の部分品、半導体等電子部品、有機化合物であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、電気回路等の機器(寄与度: +1.5%)、無機化合物(同+1.2%)等であった。一方、減少では、半導体等電子部品(寄与度: ▲1.4%)、植物性油かす(同▲1.0%)等であった。

九州の対中国貿易額の推移



出所:財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成

九州の主な対中国輸出入品目

主な輸出品目	輸出額(億円)	構成比(%)
自動車	4,009	31.0%
半導体等製造装置	1,422	11.0%
有機化合物	880	6.8%
半導体等電子部品	865	6.7%
鉄鋼のフラットロール製品	592	4.6%
銅及び同合金	545	4.2%
原動機	482	3.7%
電気回路等の機器	229	1.8%
科学光学機器	182	1.4%
鉄鋼くず	124	1.0%
その他	3,610	27.9%
総 額	12,941	100%

寄与度(増加分):自動車(+5.3%)、半導体等製造装置(+4.8%)等
寄与度(減少分):銅及同合金(▲1.1%)、半導体等電子部品(▲0.5%)等

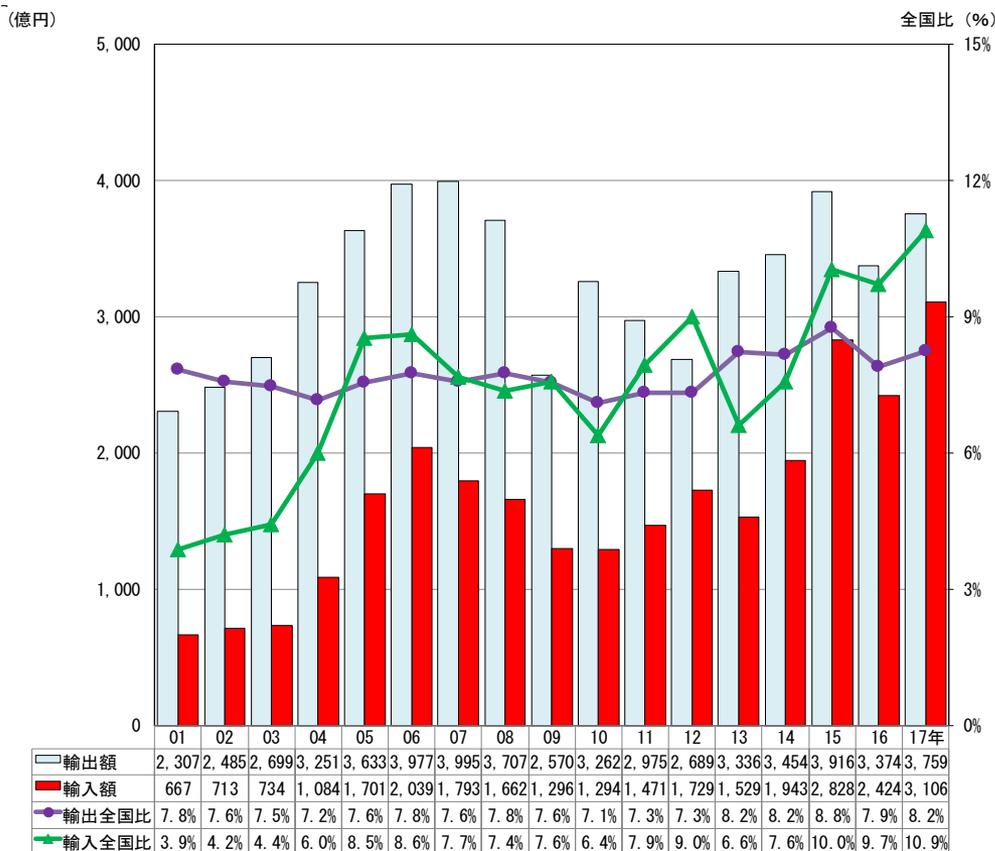
主な輸入品目	輸入額(億円)	構成比(%)
自動車の部分品	684	7.1%
半導体等電子部品	546	5.6%
有機化合物	462	4.8%
電気回路等の機器	371	3.8%
メリヤス編み及びクロセ編み衣類	261	2.7%
無機化合物	254	2.6%
野菜	241	2.5%
音響・映像機器(含部品)	222	2.3%
家庭用電気機器	210	2.2%
プラスチック製品	201	2.1%
その他	6,237	64.4%
総 額	9,097	100%

寄与度(増加分):電気回路等の機器(+1.5%)、無機化合物(+1.2%)等
寄与度(減少分):半導体等電子部品(▲1.4%)、植物性油かす(▲1.0%)等

九州と台湾の貿易動向 *

- 2017年の九州の対台湾貿易額は、輸出が3,759億円(前年比11.4%増)で前年より増加した。一方、輸入も3,106億円(前年比28.1%増)で前年より増加した。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、半導体等電子部品、有機化合物であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、原動機(寄与度: +4.8%)、銅及び同合金(同+2.1%)等であった。一方、減少では、半導体等製造装置(同▲3.2%)、有機化合物(同▲0.9%)等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、半導体等電子部品、科学光学機器、非鉄卑金属くずであった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、半導体等電子部品(寄与度: +21.7%)、科学光学機器(同+0.9%)等であった。一方、減少では、有機化合物(同▲0.3%)、通信機(同▲0.2%)等であった。

九州の対台湾貿易額の推移



九州の主な対台湾輸出入品目

主な輸出品目	輸出額(億円)	構成比(%)
自動車	470	12.5%
半導体等電子部品	388	10.3%
有機化合物	263	7.0%
半導体等製造装置	220	5.9%
銅及び同合金	190	5.1%
原動機	160	4.3%
鉄鋼のフラットロール製品	138	3.7%
科学光学機器	109	2.9%
無機化合物	97	2.6%
ポンプ及び遠心分離機	83	2.2%
その他	1,639	43.6%
総 額	3,759	100.0%

寄与度(増加分): 原動機(+4.8%)、銅及び同合金(+2.1%)等
 寄与度(減少分): 半導体等製造装置(▲3.2%)、有機化合物(▲0.9%)等

主な輸入品目	輸入額(億円)	構成比(%)
半導体等電子部品	2,025	65.2%
科学光学機器	170	5.5%
非鉄卑金属くず	60	1.9%
有機化合物	41	1.3%
音響・映像機器(含部品)	25	0.8%
プラスチック製品	21	0.7%
鉄鋼のフラットロール製品	20	0.7%
重電機器	18	0.6%
アルミニウム及び同合金	17	0.5%
合成ゴム	13	0.4%
その他	696	22.4%
総 額	3,106	100%

寄与度(増加分): 半導体等電子部品(+21.7%)、科学光学機器(+0.9%)等
 寄与度(減少分): 有機化合物(▲0.3%)、通信機(▲0.2%)等

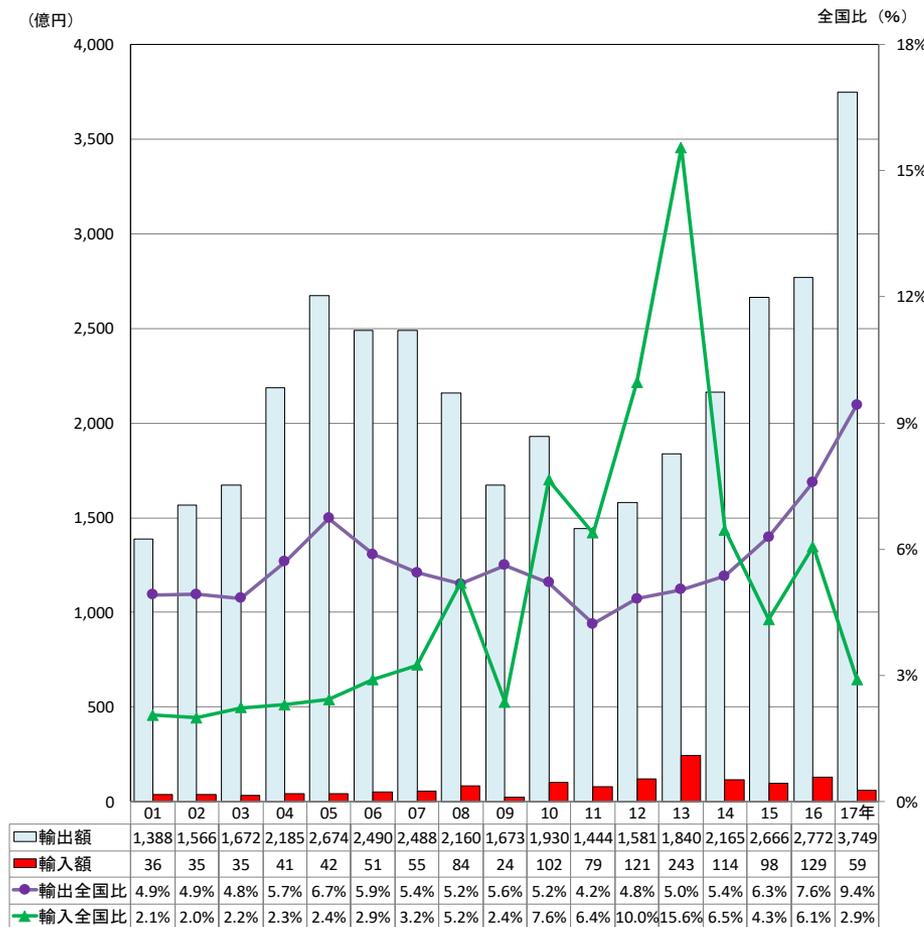
九州と香港の貿易動向*

○2017年の九州の対香港貿易額は、輸出が3,749億円(前年比35.3%増)で前年より増加し、6年連続の増加となった。一方、輸入は59億円(前年比53.8%減)で前年の半分以下に大きく減少した。

○輸出品目は、輸出額が多い順に、半導体等電子部品、船舶類、電気回路等の機器であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、半導体等電子部品(寄与度: +29.1%)、船舶類(同+5.1%)等であった。一方、減少では、映像機器(同▲1.6%)、半導体等製造装置(同▲0.6%)等であった。

○輸入品目は、輸入額が多い順に、魚介類、鉄鋼くず、非鉄卑金属くずであった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、鉄鋼くず(寄与度: +6.7%)、半導体等電子部品(同+0.8%)等であった。一方、減少では、魚介類(同▲62.8%)、非鉄卑金属くず(同▲1.7%)等であった。

九州の対香港貿易額の推移



九州の主な対香港輸出入品目

主な輸出品目	輸出額(億円)	構成比(%)
半導体等電子部品	2,435	64.9%
船舶類	423	11.3%
電気回路等の機器	131	3.5%
建設用・鉱山用機械	67	1.8%
自動車	35	0.9%
ゴムタイヤ及びチューブ	27	0.7%
化粧品	25	0.7%
貴石等の製品類	23	0.6%
映像機器	22	0.6%
鉄鋼のフラットロール製品	22	0.6%
その他	539	14.4%
総額	3,749	100.0%

寄与度(増加分): 半導体等電子部品(+29.1%)、船舶類(+5.1%)等
寄与度(減少分): 映像機器(▲1.6%)、半導体等製造装置(▲0.6%)等

主な輸入品目	輸入額(億円)	構成比(%)
魚介類	10	16.1%
鉄鋼くず	9	14.5%
非鉄卑金属くず	5	8.8%
半導体等電子部品	1.0	1.7%
半導体等製造装置	0.4	0.7%
ポンプ及び遠心分離機	0.3	0.5%
絶縁電線及び絶縁ケーブル	0.2	0.3%
プラスチック製品	0.1	0.2%
通信機	0.1	0.2%
貴石及び半貴石	0.1	0.1%
その他	33.9	57.0%
総額	59	100.0%

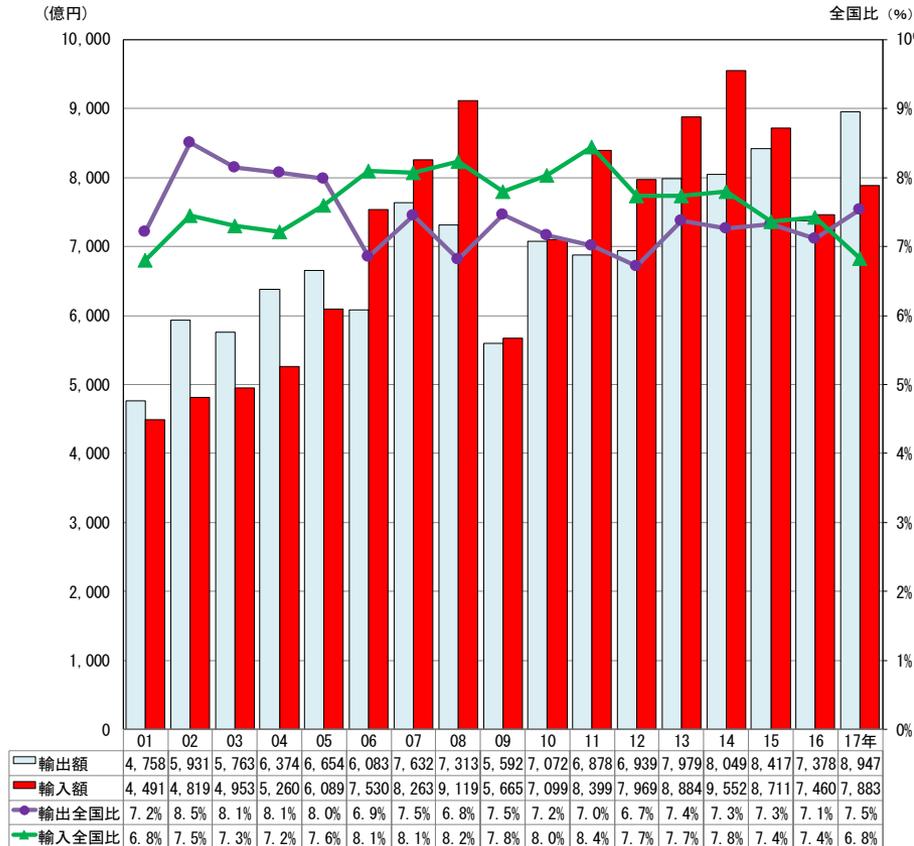
寄与度(増加分): 鉄鋼くず(+6.7%)、半導体等電子部品(+0.8%)等
寄与度(減少分): 魚介類(▲62.8%)、非鉄卑金属くず(▲1.7%)等

九州とASEANの貿易動向①*

○2017年の九州の対ASEAN貿易額は、輸出が8,947億円(前年比21.3%増)で前年より増加した。一方、輸入も7,883億円(前年比5.7%増)で前年より増加し、3年ぶりに増加へ転じた。

○輸出は、シンガポール向け2,123億円(前年比17.9%増)、タイ向け2,077億円(同26.8%増)等で増加し、2ヶ国(ミャンマー、ブルネイ)向けは減少した。一方、輸入は、インドネシアから2,543億円(同1.7%減)、タイから1,692億円(同11.2%増)等で増加し、3ヶ国(シンガポール、フィリピン、インドネシア)からは減少した。

九州の対ASEAN貿易額の推移



九州のASEAN域内における国別輸出入動向

(単位:億円、%)

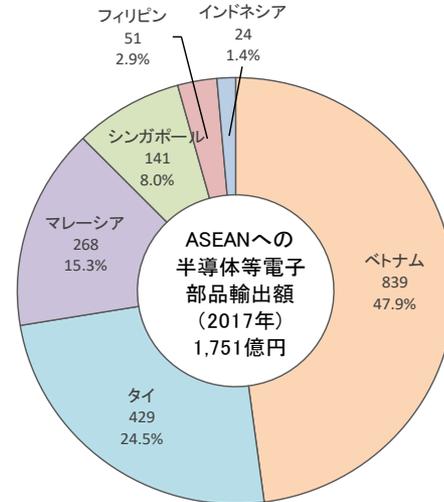
国名	輸出				全国比	輸入				
	金額	構成比	伸び率	寄与度		金額	構成比	伸び率	寄与度	全国比
ベトナム	1,714	19.2%	36.7%	6.2%	10.2%	1,269	16.1%	15.3%	2.3%	6.1%
タイ	2,077	23.2%	26.8%	6.0%	6.3%	1,692	21.5%	11.2%	2.3%	6.6%
シンガポール	2,123	23.7%	17.9%	4.4%	8.4%	179	2.3%	▲6.5%	▲0.2%	1.9%
マレーシア	1,338	15.0%	15.8%	2.5%	9.4%	929	11.8%	18.7%	2.0%	4.3%
ブルネイ	8	0.1%	▲14.3%	▲0.02%	8.8%	25.3	0.3%	18078.0%	0.3%	1.31%
フィリピン	741	8.3%	9.3%	0.9%	5.9%	1,175	14.9%	▲3.5%	▲0.6%	10.7%
インドネシア	867	9.7%	16.3%	1.6%	5.8%	2,543	32.3%	▲1.7%	▲0.6%	11.4%
カンボジア	27	0.3%	3.3%	0.0%	6.8%	34	0.4%	19.2%	0.1%	2.4%
ラオス	2	0.0%	1.8%	0.0%	1.6%	5	0.1%	42.5%	0.0%	2.9%
ミャンマー	49	0.6%	▲28.1%	▲0.3%	5.0%	33	0.4%	23.4%	0.1%	2.8%
ASEAN 計	8,947	100.0%	21.3%	21.3%	7.5%	7,883	100.0%	5.7%	5.7%	6.8%

出所:財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成

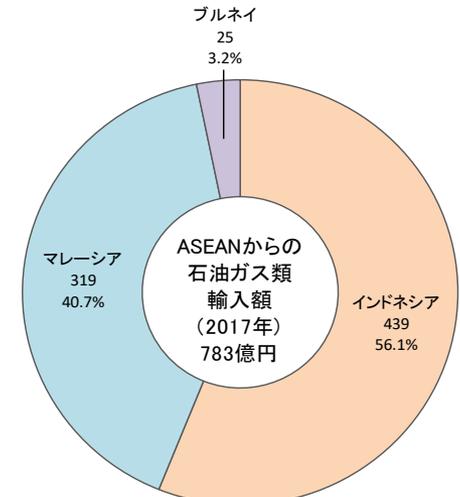
九州とASEANの貿易動向②*

- 輸出品目は、輸出額が大きい順に、半導体等電子部品、鉄鋼のフラットロール製品、船舶類であった。
- 輸入品目は、輸入額が大きい順に、石油ガス類、絶縁電線及び絶縁ケーブル、天然ゴムであった。

九州のASEANへの主要輸出品目別相手国



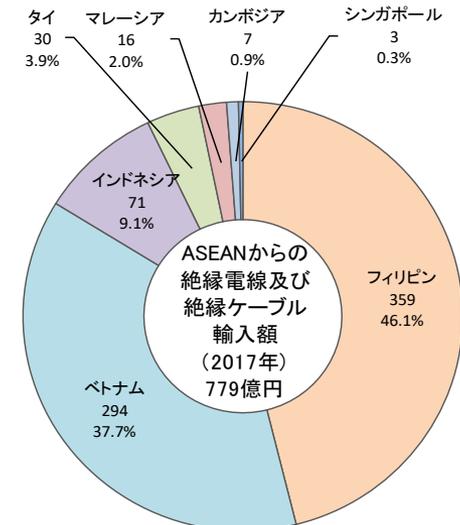
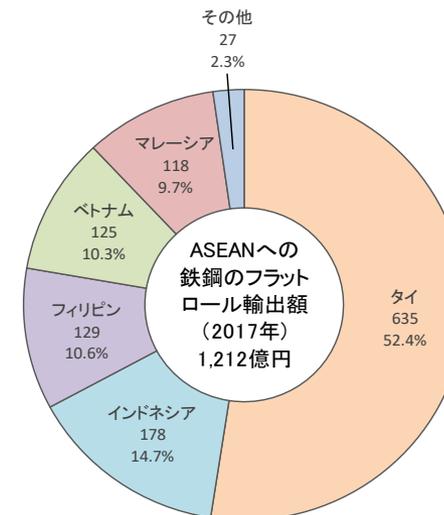
九州のASEANからの主要輸入品目別相手国



九州の主な対ASEAN輸出入品目

主な輸出品目	輸出額(億円)	構成比(%)
半導体等電子部品	1,751	19.6%
鉄鋼のフラットロール製品	1,212	13.5%
船舶類	687	7.7%
金(マネタリーゴールドを除く)	684	7.6%
自動車	466	5.2%
有機化合物	356	4.0%
事務用機器	268	3.0%
鉄鋼の棒・形鋼及び線	254	2.8%
ゴムタイヤ及びチューブ	189	2.1%
映像機器	175	2.0%
その他	2,903	32.4%
総額	8,947	100.0%

主な輸入品目	輸入額(億円)	構成比(%)
石油ガス類	783	9.9%
絶縁電線及び絶縁ケーブル	779	9.9%
天然ゴム	618	7.8%
石炭	491	6.2%
自動車の部分品	381	4.8%
非鉄金属鉱	370	4.7%
音響・映像機器(含部品)	210	2.7%
原油及び粗油	163	2.1%
魚介類	149	1.9%
半導体等電子部品	139	1.8%
その他	3,800	48.2%
総額	7,883	100%

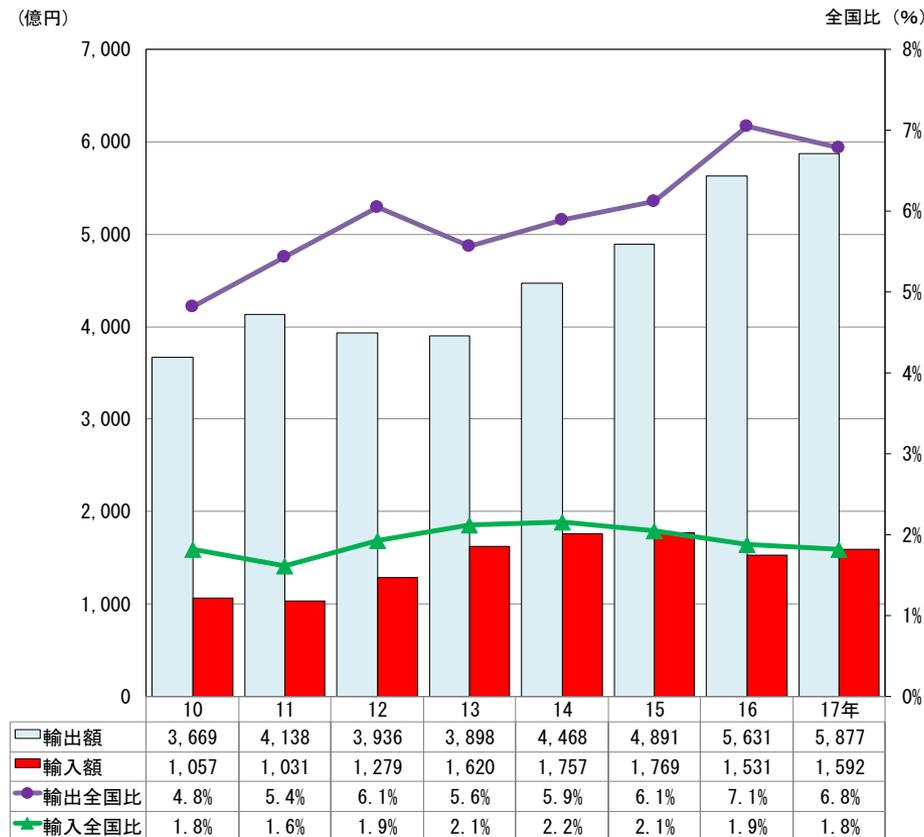


出所: 財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成

九州とEUの貿易動向①*

- 2017年の九州の対EU貿易額は、輸出が5,877億円(前年比4.4%増)で前年より増加し、4年連続の増加となった。一方、輸入も1,592億円(前年比4.0%増)で前年より増加した。
- 九州からの輸出は、オランダ向けが1,359億円(前年比5.8%増)で最も多く、次がイタリア向けの903億円(前年比3.1%増)、ドイツ向けの902億円(前年比19.2%増)であった。
- 九州への輸入は、フランスからが395億円(前年比9.5%増)で最も多く、次がドイツからの355億円(前年比3.8%減)、スペインからの195億円(前年比23.3%増)であった。

九州の対EU貿易額の推移



出所:財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成

九州のEU域内における国別輸出入動向(上位10ヶ国)

国名	輸出額(億円)	構成比
オランダ	1,359	23.1%
イタリア	903	15.4%
ドイツ	902	15.3%
英国	887	15.1%
スペイン	422	7.2%
ベルギー	415	7.1%
フランス	346	5.9%
マルタ	138	2.4%
スウェーデン	112	1.9%
ルクセンブルク	62	1.1%
その他	331	5.6%
EU計	5,877	100.0%

国名	輸入額(億円)	構成比
フランス	395	24.8%
ドイツ	355	22.3%
スペイン	198	12.4%
英国	137	8.6%
イタリア	93	5.9%
オランダ	70	4.4%
デンマーク	56	3.5%
フィンランド	55	3.5%
スウェーデン	49	3.1%
ベルギー	42	2.6%
その他	142	8.9%
EU計	1,592	100.0%

九州とEUの貿易動向②*

○輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、船舶類、事務用機器であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、二輪自動車(寄与度: +1.7%)、自動車(同+1.1%)等であった。一方、減少では、船舶類(同▲2.0%)、鉄鋼のフラットロール製品(同▲0.9%)等であった。

○輸入品目は、輸入額が多い順に、原動機、電気計測機器、自動車の部分品であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、原動機(寄与度: +3.4%)、電気計測機器(同+2.3%)等であった。一方、減少では、音響・映像機器(含部品)(同▲1.3%)、小麦及びメスリン(同▲0.8%)等であった。

九州の主な対EU輸出入品目

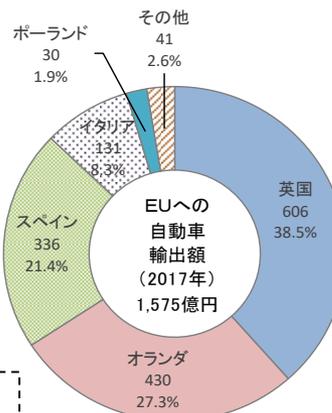
主な輸出品目	輸出額(億円)	構成比(%)
自動車	1,575	26.8%
船舶類	849	14.4%
事務用機器	499	8.5%
半導体等電子部品	429	7.3%
二輪自動車類	375	6.4%
ゴムタイヤ及びチューブ	306	5.2%
映像機器	190	3.2%
ポンプ及び遠心分離機	145	2.5%
自動車用等の電気機器	138	2.3%
有機化合物	120	2.1%
その他	1,252	21.3%
総計	5,877	100.0%

寄与度(増加分): 二輪自動車類(+1.7%)、自動車(+1.1%)等
 寄与度(減少分): 船舶類(▲2.0%)、鉄鋼のフラットロール製品(▲0.9%)等

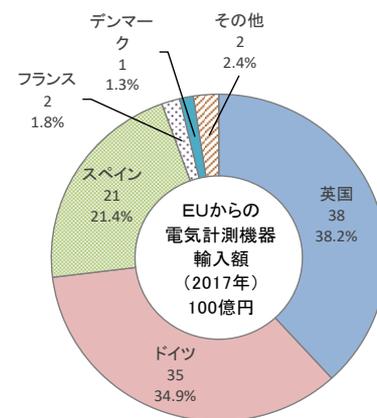
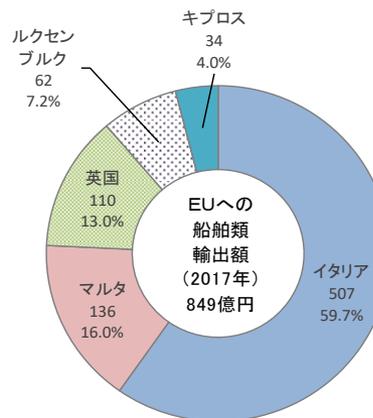
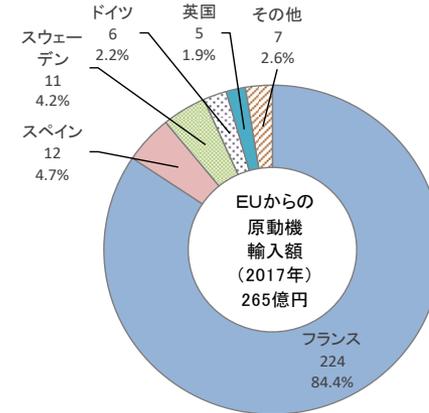
主な輸入品目	輸入額(億円)	構成比(%)
原動機	265	16.6%
電気計測機器	100	6.3%
自動車の部分品	82	5.1%
有機化合物	58	3.6%
航空機類	54	3.4%
豚・いのししの肉	53	3.3%
無機化合物	45	2.8%
ポンプ及び遠心分離機	43	2.7%
重電機器	36	2.3%
木材	30	1.9%
その他	826	51.9%
総額	1,592	100%

寄与度(増加分): 原動機(+3.4%)、電気計測機器(+2.3%)等
 寄与度(減少分): 音響・映像機器(含部品)(▲1.3%)、
 小麦及びメスリン(▲0.8%)等

九州のEUへの 主要輸出品目別相手国



九州のEUからの 主要輸入品目別相手国



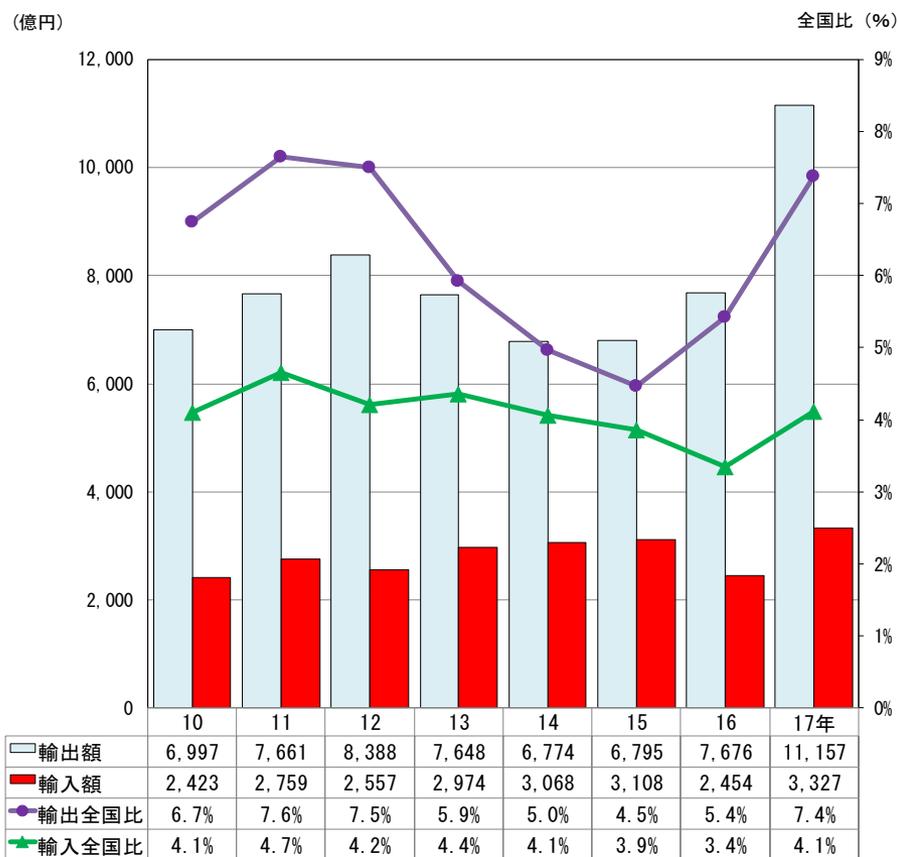
九州と米国の貿易動向*

○2017年の九州の対米貿易額は、輸出が1兆1,157億円(前年比45.4%増)で前年より増加し、3年連続の増加となった。一方、輸入も3,327億円(前年比35.6%増)で前年より増加した。

○輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、事務用機器、ゴムタイヤ及びチューブであった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、自動車(寄与度: +36.7%)、二輪自動車類(同+1.2%)等であった。一方、減少では、半導体等電子部品(同▲0.7%)、ゴムタイヤ及びチューブ(同▲0.5%)等であった。

○輸入品目は、輸入額が多い順に、とうもろこし、石油ガス類、石炭であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、石油ガス類(寄与度: +9.1%)、石油製品(同+3.7%)等であった。一方、減少では、音響・映像機器(含部品)(同▲1.3%)、米(同▲0.2%)等であった。

九州の対米貿易額の推移



出所:財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成

九州の主な対米国輸出入品目

主な輸出品目	輸出額(億円)	構成比(%)
自動車	6,369	57.1%
事務用機器	530	4.7%
ゴムタイヤ及びチューブ	369	3.3%
原動機	356	3.2%
半導体等電子部品	291	2.6%
二輪自動車類	265	2.4%
自動車の部分品	265	2.4%
映像機器	240	2.1%
鉄鋼のフラットロール製品	212	1.9%
自動車用等の電気機器	178	1.6%
その他	2,081	18.7%
総 額	11,157	100%

寄与度(増加分):自動車(+36.7%)、二輪自動車類(+1.2%)等

寄与度(減少分):半導体等電子部品(▲0.7%)、ゴムタイヤ及びチューブ(▲0.5%)等

主な輸入品目	輸入額(億円)	構成比(%)
とうもろこし	578	17.4%
石油ガス類	412	12.4%
石炭	215	6.4%
石油製品	166	5.0%
原油及び粗油	129	3.9%
魚介類	125	3.8%
有機化合物	120	3.6%
小麦及びメスリン	97	2.9%
原動機	95	2.9%
無機化合物	90	2.7%
その他	1,299	39.1%
総 額	3,327	100%

寄与度(増加分):石油ガス類(+9.1%)、石油製品(+3.7%)等

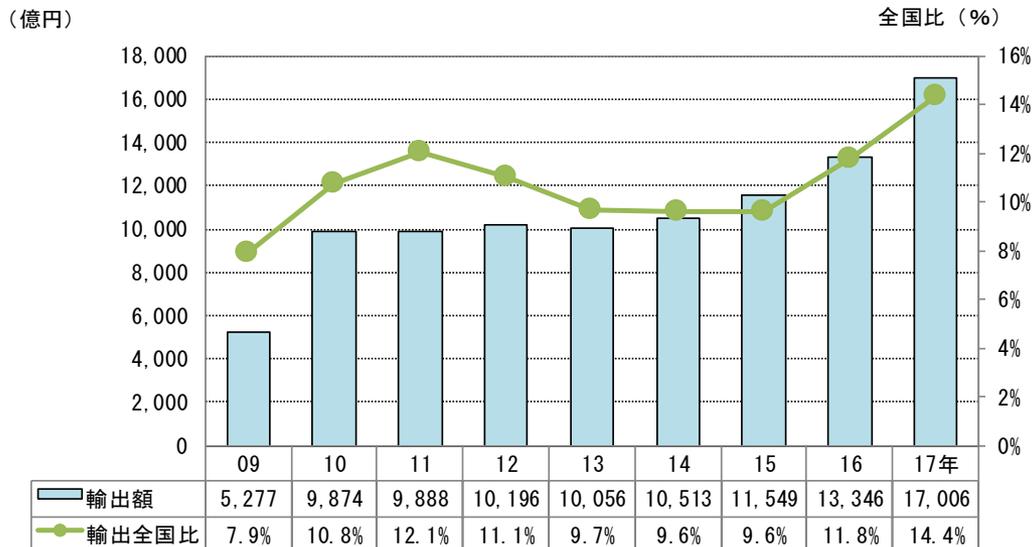
寄与度(減少分):音響・映像機器(含部品)(▲1.3%)、米(▲0.2%)等

九州の産業別貿易動向①(自動車)*

○2017年の九州の自動車輸出額は1兆7,006億円(前年比27.4%増)で前年より増加し、4年連続の増加となった。輸出先は、米国が最も多く、次いで中国、アラブ首長国連邦であった。

○2017年の九州の自動車生産台数は、139万台(前年比3.1%増)で、日本全体の生産台数(969万台)の約14%を占めた。

九州の自動車輸出額の推移



九州の自動車の主な輸出相手国・地域

国・地域	2017年	
	金額(億円)	構成比(%)
米国	6,369	37.5%
中国	4,009	23.6%
アラブ首長国連邦	1,243	7.3%
メキシコ	640	3.8%
英国	606	3.6%
その他	4,139	24.3%
計	17,006	100.0%

世界の自動車生産台数(右図)

(単位:万台、%)

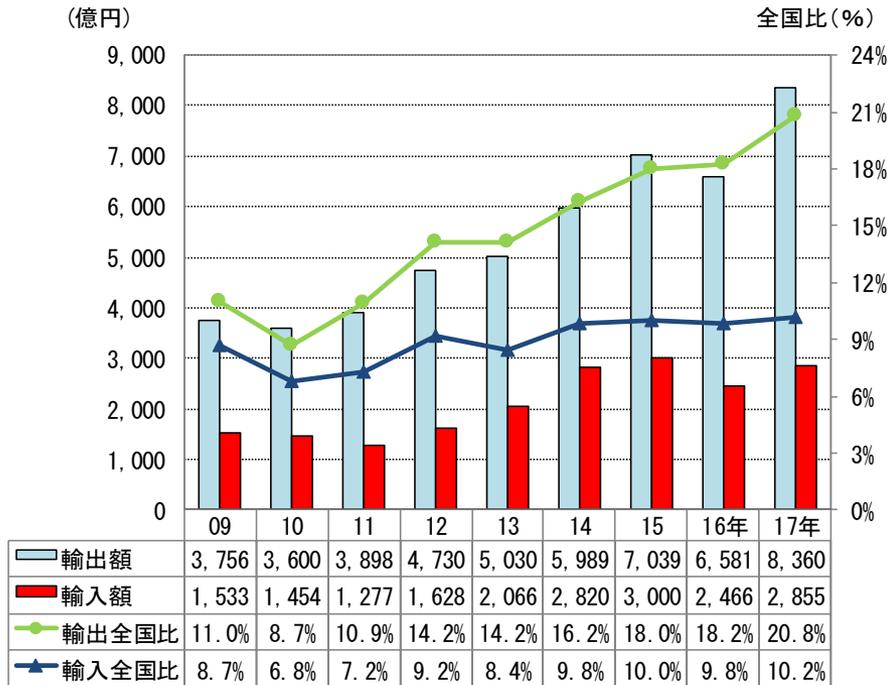
地域	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2017年		
							構成比	伸び率	11年比
ヨーロッパ	1,986	1,992	2,043	2,117	2,149	2,216	22.8%	3.1%	11.6%
米州	2,009	2,113	2,122	2,096	2,082	2,067	21.2%	▲ 0.7%	2.9%
アジア大洋州	4,370	4,582	4,740	4,788	5,185	5,354	55.0%	3.3%	22.5%
日本	994	963	977	928	920	969	10.0%	5.3%	▲ 2.5%
九州	146	134	130	135	135	139	1.4%	3.1%	▲ 4.8%
中国	1,927	2,212	2,373	2,457	2,812	2,902	29.8%	3.2%	50.6%
韓国	456	452	452	456	423	411	4.2%	▲ 2.7%	▲ 9.8%
インド	417	390	384	416	452	478	4.9%	5.8%	14.6%
タイ	243	246	188	191	194	199	2.0%	2.3%	▲ 18.1%
その他	332	319	365	341	383	394	4.1%	3.0%	19.0%
アフリカ	59	64	72	84	90	93	1.0%	3.1%	58.8%
世界計	8,424	8,751	8,978	9,084	9,506	9,730	100.0%	2.4%	15.5%

出所:財務省「貿易統計」、国際自動車工業会連合会HPより
九州経済産業局作成

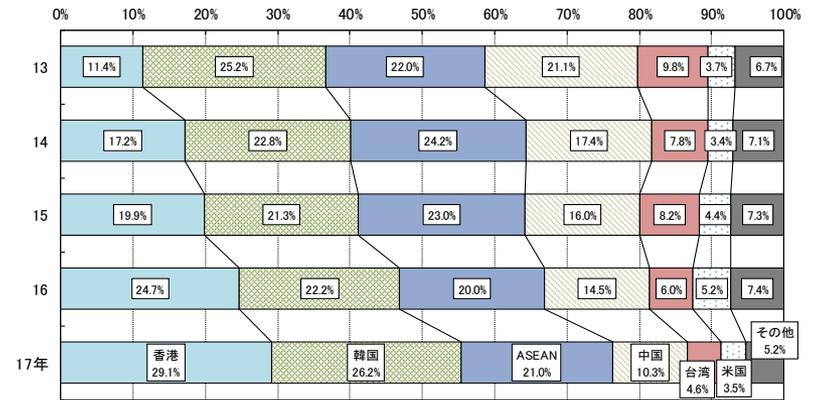
九州の産業別貿易動向②(半導体等電子部品)*

- 2017年の九州の半導体等電子部品貿易額は、輸出が8,360億円(前年比27.0%増)で前年より増加した。一方、輸入も2,855億円(前年比15.8%増)で前年より増加した。
- 九州の輸出相手国・地域では、香港向けが最も多く、次いで韓国、中国であった。直近の5年間で、香港向けの割合が2倍以上増加し、中国向けの割合は半分以下と大きく減少した。
- 九州の輸入相手国・地域では、台湾からが最も多く、次いで中国、韓国であった。直近の5年間で、台湾からの割合が2割から7割へと大きく増加し、中国、韓国、ASEANからの割合が大きく減少した。

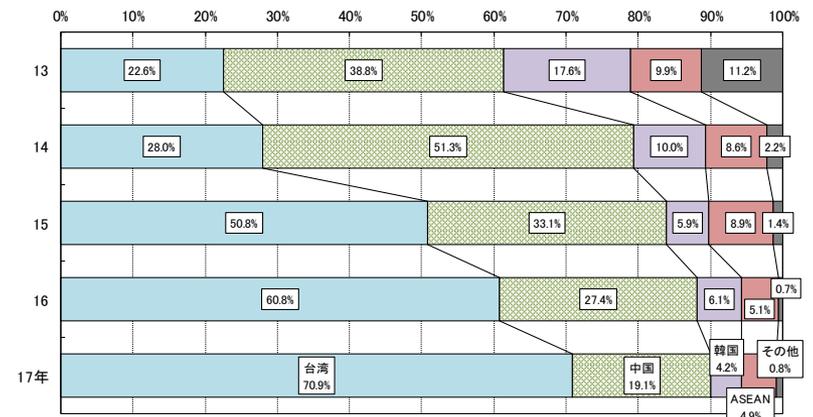
九州の半導体等電子部品の貿易額推移



九州の半導体等電子部品の主な輸出相手国・地域



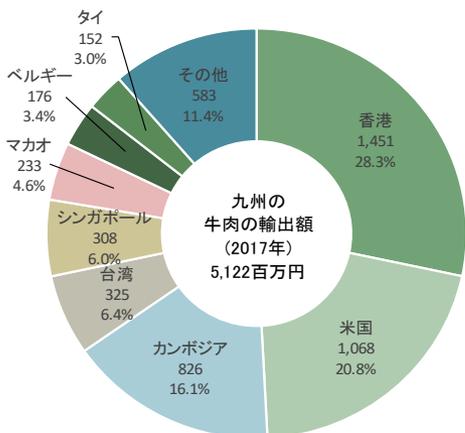
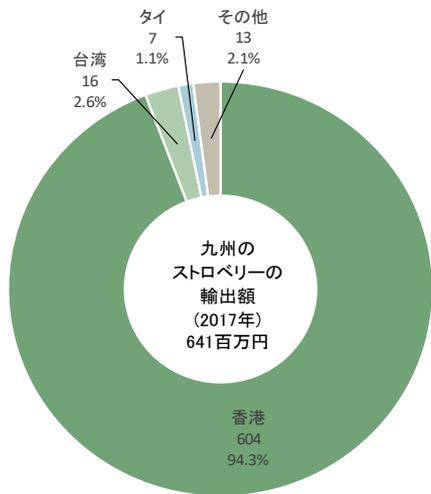
九州の半導体等電子部品の主な輸入相手国・地域



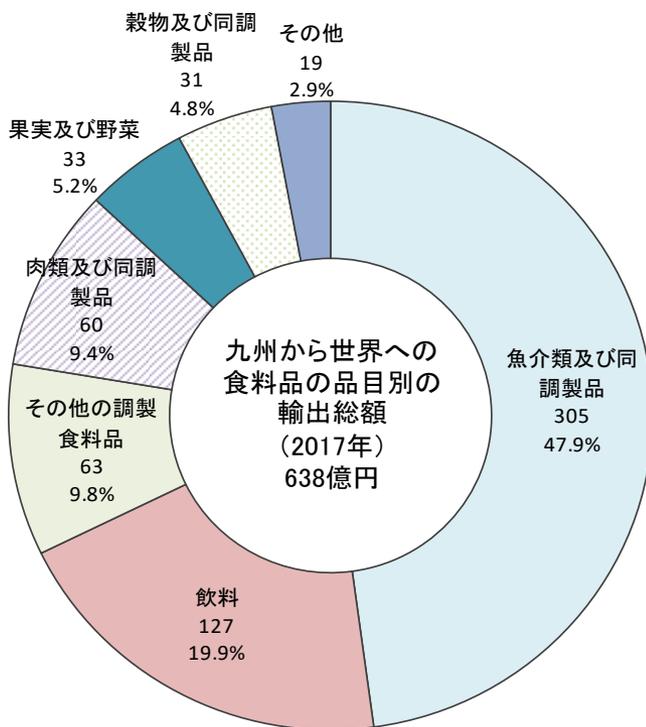
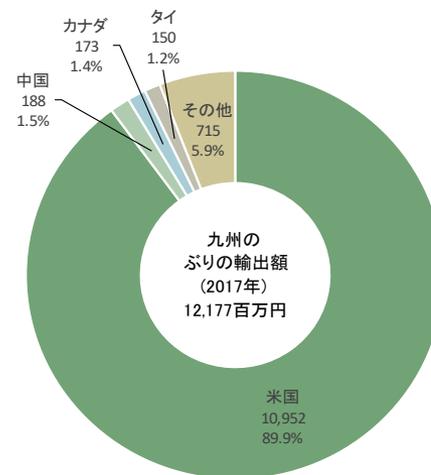
九州の産業別貿易動向③(食料品)*

○九州の食料品について品目別に見ると、魚介類及び同調製品の輸出額が最も多く、次いで飲料、その他の調整食料品、肉類及び同調製品であった。ぶりは米国、ビールは韓国、牛肉とストロベリーは香港向けが最も多い。

野菜及び果実

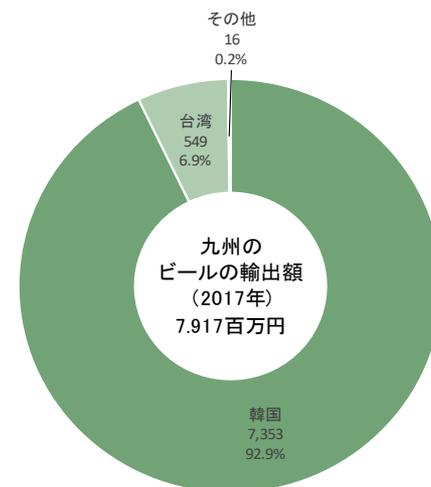


魚介類及び同調製品



肉類及び同調製品

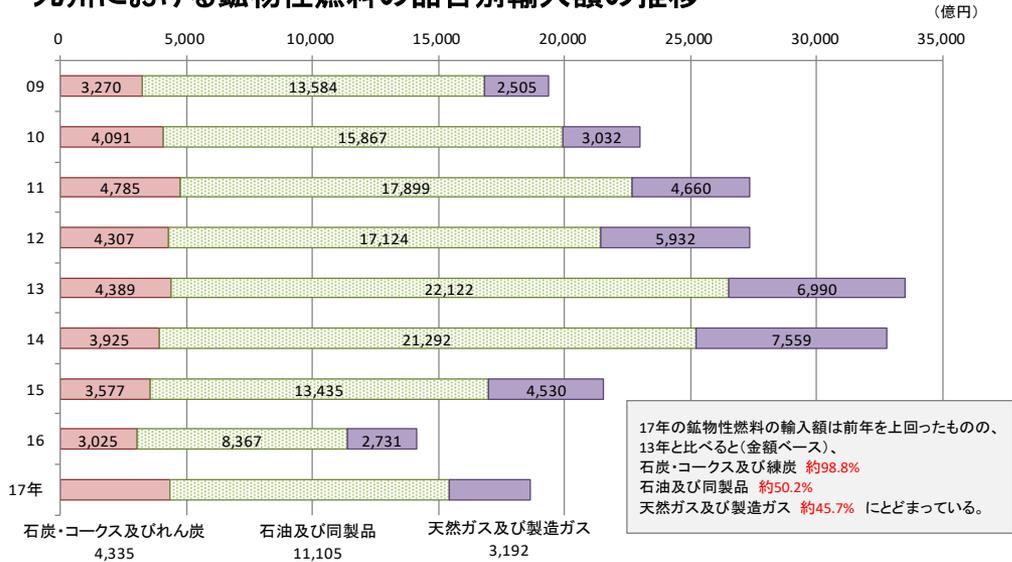
飲料



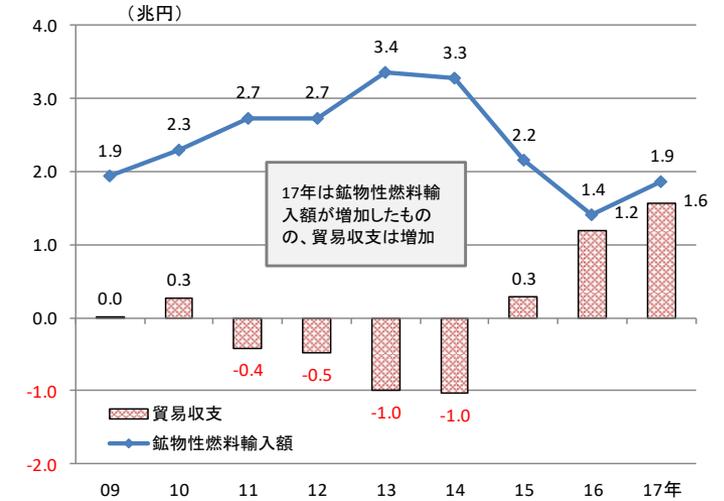
九州の産業別貿易動向④(鉱物性燃料)*

- 2017年の九州の鉱物性燃料の輸入額は1兆8,632億円(前年比31.9%増)で前年より増加し、4年ぶりに増加に転じた。
- 原油相場における原油価格をみると、2017年は前年を上回った。
- 九州の主な鉱物性燃料の石炭、原油及び粗油、LNGの輸入数量をみると、それぞれ前年を下回っている。

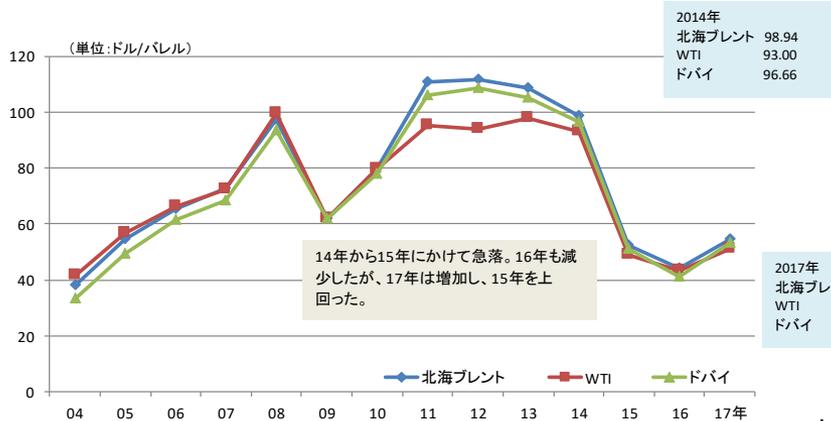
九州における鉱物性燃料の品目別輸入額の推移



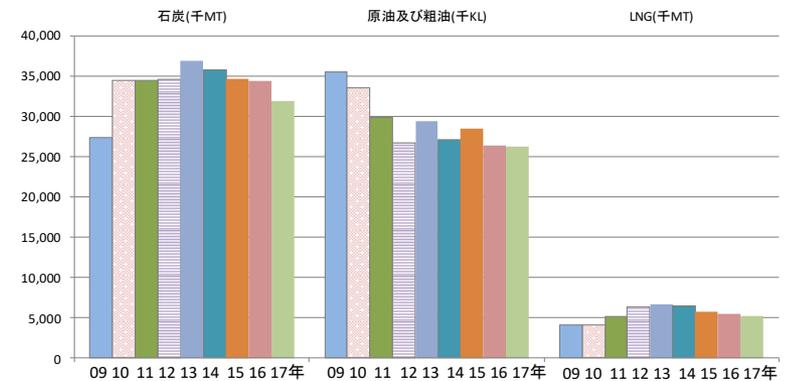
九州における鉱物性燃料輸入額と貿易収支の推移



原油相場における原油価格の推移



九州の主な鉱物性燃料の輸入数量の推移



九州企業の海外進出①

○2017年までの九州企業の海外進出累計件数は、1,025件となっている。このうち2017年の新規海外進出件数は20件である。全国の2017年時点の海外進出累計件数は30,644件で、うち新規海外進出件数は394件である。

○九州企業の海外進出について、進出先別の累計件数ではアジアが798件と8割弱を占めており、中でも中国(364件)は全体の3分の1を超えているものの、近年進出件数は減ってきている。一方、ASEAN地域(257件)は近年進出件数が増えてきており、全体の4分の1を超えた。さらに、直近5年では47%と約5割を占める。

○全国では進出件数に占めるアジアの割合が6割強となっており、九州は全国に比べて進出件数に占めるアジアの割合が高い。

九州企業の国・地域別海外進出状況

(単位:件)

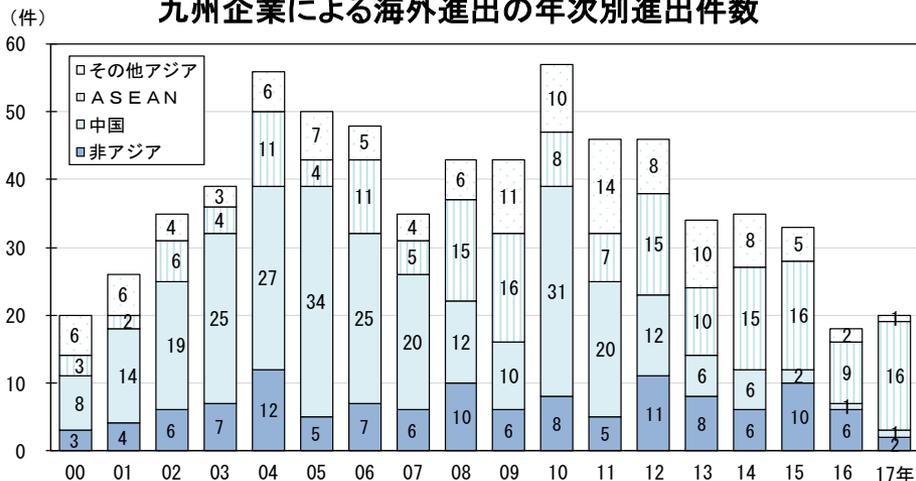
	九州													九州計	全 国		
	12年		13年		14年		15年		16年		17年		不明		構成比(%)	2017年時点	
		構成比(%)				掲載ベース	構成比(%)										
世界合計	46	100.0	34	100.0	35	100.0	33	100.0	18	100.0	20	100.0	41	1,025	100.0%	30,644	100.0
アジア	35	76.1	26	76.5	29	82.9	23	69.7	12	66.7	18	90.0	27	798	77.9%	19,107	62.4
中国	12	26.1	6	17.6	6	17.1	2	6.1	1	5.6	1	5.0	9	364	35.5%	6,744	22.0
韓国	2	4.3	2	5.9	2	5.7	-	-	-	-	-	-	2	47	4.6%	957	3.1
香港	2	4.3	3	8.8	2	5.7	-	-	-	-	-	-	1	40	3.9%	1,307	4.3
台湾	2	4.3	3	8.8	4	11.4	3	9.1	2	11.1	1	5.0	6	62	6.0%	1,094	3.6
ASEAN	15	32.6	10	29.4	15	42.9	16	48.5	9	50.0	16	80.0	8	257	25.1%	8,030	26.2
インド	1	2.2	2	5.9	-	-	1	-	-	-	-	-	1	24	2.3%	845	2.8
その他アジア	1	-	-	0.0	-	-	1	-	-	-	-	-	-	4	0.4%	130	0.4
EU	5	-	1	2.9	2	5.7	-	-	3	16.7	1	5.0	7	71	6.9%	4,140	13.5
ロシア	1	-	1	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	0.4%	188	0.6
米国	-	-	1	-	3	8.6	7	21.2	1	5.6	-	-	4	103	10.0%	3,939	12.9
オーストラリア	-	-	1	-	-	-	-	-	1	5.6	1	5.0	1	7	0.7%	608	2.0
その他	5	10.9	4	11.8	1	2.9	3	9.1	1	5.6	-	-	1	42	4.1%	2,662	8.7

出所:(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出2017」、東洋経済新報社「海外進出企業総覧2018(国別編)」より九州経済産業局作成

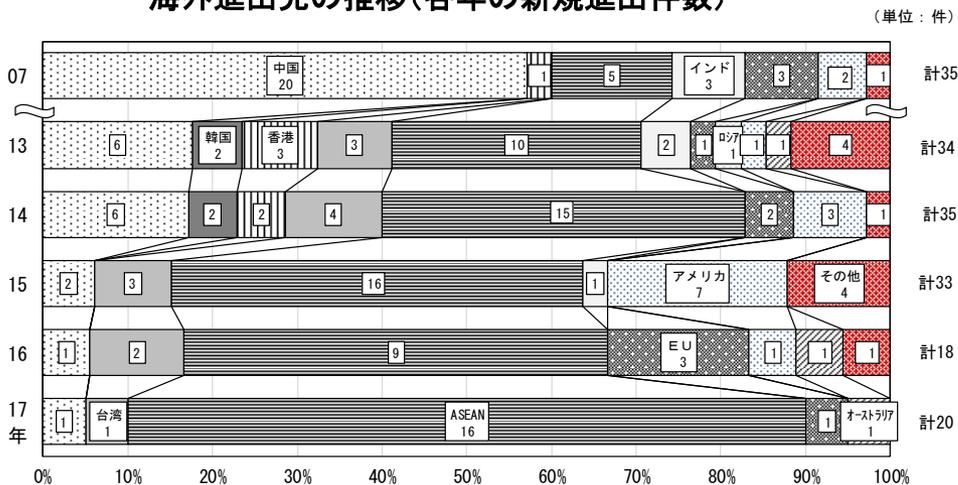
九州企業の海外進出②

- 新規進出の件数では、2010年の57件をピークとしてその後は若干減少傾向にあり、2017年は前年を2件上回ったものの20件とピーク時の3分の1強と少なかった。
- 新規進出先では、2011年頃までは中国が最も多かったが、その後は減少し、近年ではASEANへの進出件数が中国を上回り、全体の割合でもASEANが大きく、2017年も全体の8割をASEANが占めた。
- 進出企業を県別にみると、福岡県が約7割と最も多く、以下長崎県、熊本県が続いている。

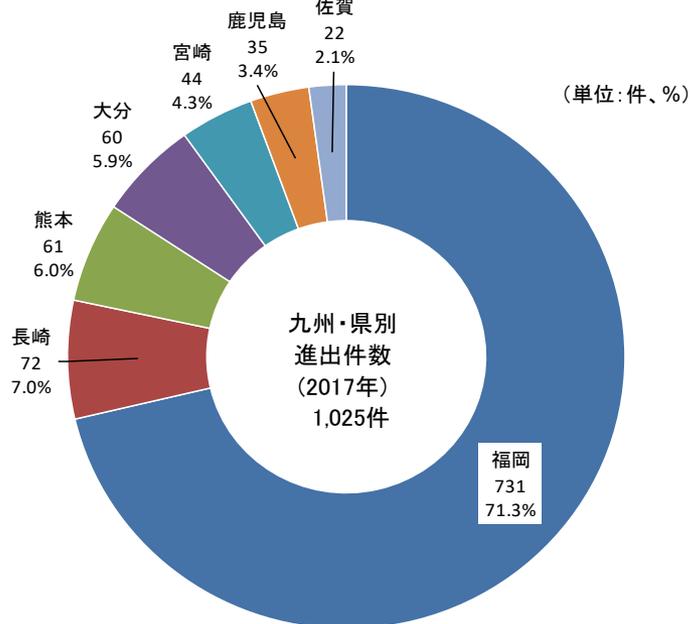
九州企業による海外進出の年次別進出件数



海外進出先の推移(各年の新規進出件数)



九州各県の海外進出企業件数(2017年累計)

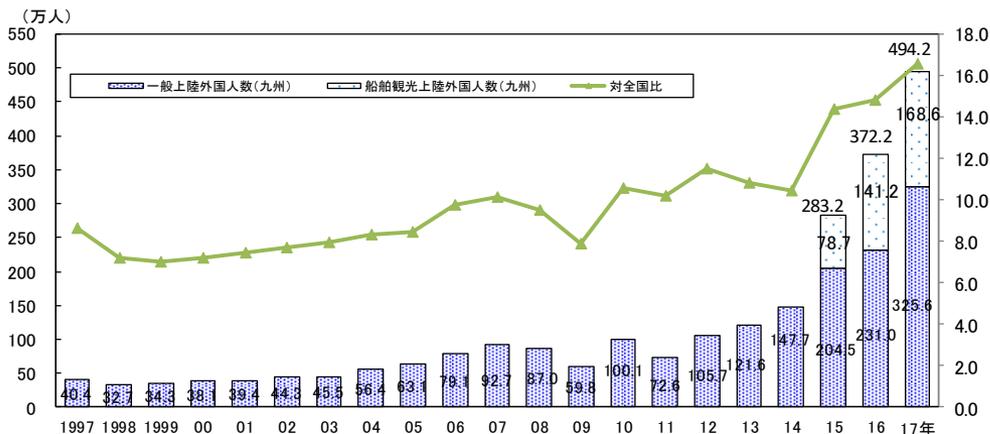


出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出2017」より九州経済産業局作成

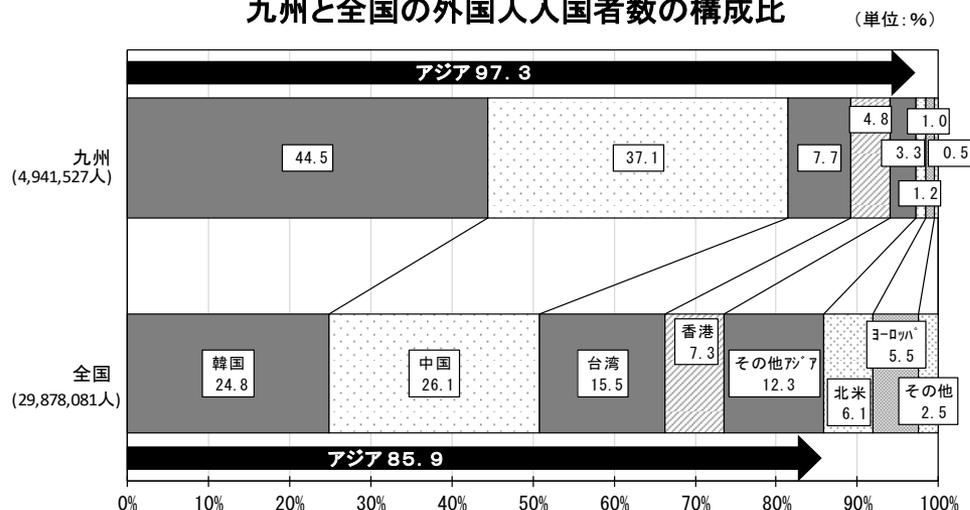
九州への外国人入国者①

○2017年に九州へ入国した外国人数(一般上陸許可を受けた外国人数(以下、「一般上陸外国人数」という。))及び船舶観光上陸許可(出入国管理及び難民認定法第14条の2)を受けた外国人数(以下、「船舶観光上陸外国人数」という。)の総数は494.2万人(前年比32.8%増、全国比16.5%)と前年から増加した。国籍別では、韓国が44.5%と最も多く、次いで中国(37.1%)、台湾(7.7%)、香港(4.8%)等となっており、九州は全国に比べてアジアからの入国者数の割合が高い。

九州へ入国した外国人数及び全国比の推移



九州と全国の外国人入国者数の構成比



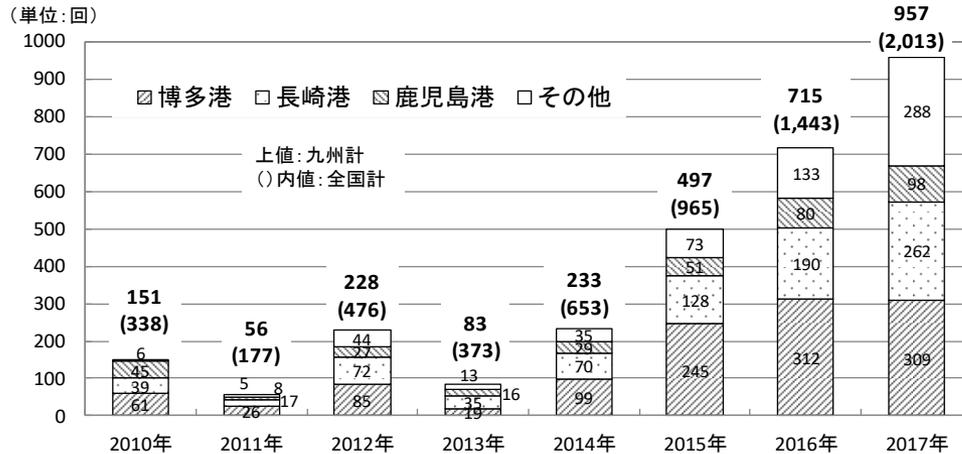
出所: 法務省「出入国管理統計」より九州経済産業局作成

九州への外国人入国者②

○九州(下関港を含む)への外国クルーズ船の寄港数については、近年増加傾向にあり、2017年は九州全体で957回(全国2,013件、全国比47.5%)と前年の約3割増となった。なお、博多港は、2017年のクルーズ船の寄港数が309回と前年に引き続き全国第1位(第2位は長崎港)であった。

○船舶観光上陸の許可を受けた外国人数では、九州が全国の7割弱を占めた。

九州(下関港を含む)への外国クルーズ船の寄港回数の動向



九州と全国の港別船舶観光上陸外国人数の動向

(単位:人)

	2017年		2016年		
	船舶観光上陸 外国人数	構成比 (%)	伸び率 (%)	船舶観光上陸 外国人数	構成比 (%)
全国	2,449,299	100.0	26.5	1,936,469	100.0
大阪港	31,509	1.3	1236.8	2,357	0.1
関門港(下関)	71,423	2.9	650.1	9,522	0.5
九州	1,685,776	68.8	19.4	1,411,646	72.9
博多港	609,027	24.9	▲ 22.0	781,274	40.3
長崎港	587,130	24.0	34.9	435,378	22.5
八代港	214,361	8.8	626.9	29,488	1.5
鹿児島港	115,210	4.7	17.2	98,326	5.1
佐世保港	80,960	3.3	32.5	61,081	3.2
関門港(戸畑)	77,906	3.2	1580.5	4,636	0.2
その他	1,182	0.0	▲ 19.2	1,463	0.1
那覇港	372,422	15.2	43.9	258,735	13.4
その他	288,169	11.8	13.4	254,209	13.1

出所:国土交通省「2017年の我が国のクルーズ等の動向(調査結果)について」及び九州地方整備局「九州クルーズレポート」(2018年6月号)より九州経済産業局作成

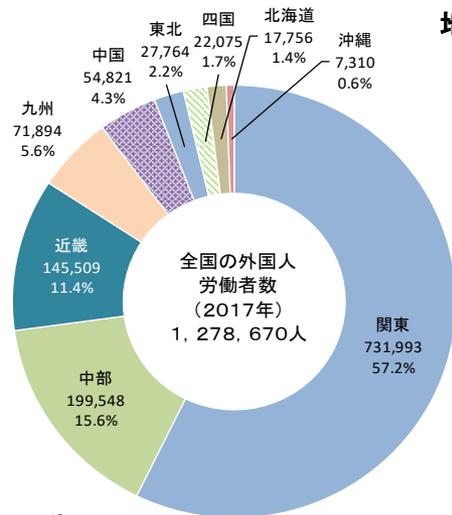
出所:法務省「出入国管理統計」より九州経済産業局作成

九州の外国人労働者

○2017年の全国の外国人労働者数は1,278,670人(前年同期比18.0%増)で過去最高を更新した。地域別では、関東が57.2%と最も多く、次いで中部(15.6%)、近畿(11.4%)等となっている。国籍別では、中国(香港等含む)が29.1%と最も多く、次いでベトナム(18.8%)、フィリピン(11.5%)等となっている。

○九州の外国人労働者数は71,894人(全国比5.6%)で、前年同期比21.7%増と大きく増加した。産業別では、製造業が27.9%と最も多く、次いで卸売業・小売業(14.4%)、宿泊業・飲食サービス業(9.5%)等となっている。

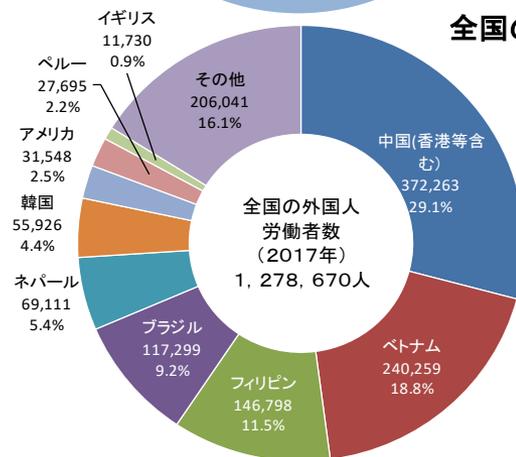
地域別外国人労働者数



九州の外国人労働者数と全国比の推移



全国の国籍別の外国人労働者数



九州と全国の産業別の外国人労働者数

産業	九州		全国	
	人数	構成比	人数	構成比
製造業	20,076	27.9%	385,997	35.6%
卸売業・小売業	10,367	14.4%	166,182	15.3%
教育・学習支援業	5,954	8.3%	65,309	6.0%
宿泊業・飲食サービス業	6,849	9.5%	157,866	14.6%
建設業	3,374	4.7%	55,168	5.1%
情報通信業	652	0.9%	52,038	4.8%
サービス業(他に分類されないもの)	8,120	11.3%	189,858	17.5%
上記以外	16,502	23.0%	206,252	19.0%
全産業計	71,894	100.0%	1,278,670	118.0%

出所:厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめ(平成29年10月末現在)より九州経済産業局作成。

九州の留学生

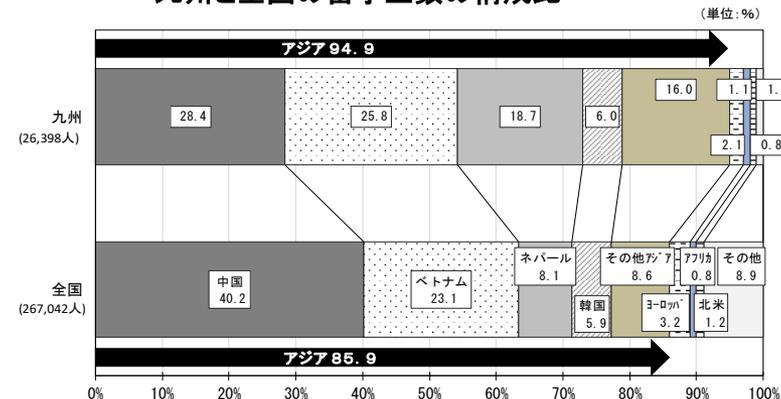
○2017年の留学生数(高等教育機関及び日本語教育機関における総数)は26,398人(前年比9.5%増、全国比9.9%)となっている。国籍別では中国が28.4%と最も多く、次いでベトナム(25.8%)、ネパール(18.7%)、韓国(6.0%)等となっており、アジアからが9割以上を占めている。

○九州の企業等に就職した留学生は1,189人(前年比27.2%増)と前年より増加し、また、全国比も5.3%と前年より増加した。

九州の留学生数の推移

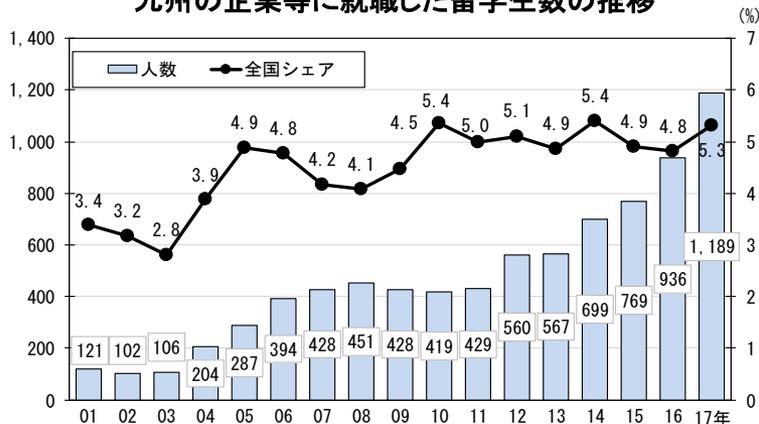


九州と全国の留学生数の構成比



出所: (独)日本学生支援機構「平成29年度外国人留学生在籍状況調査結果」(平成29年5月1日現在)より九州経済産業局作成

九州の企業等に就職した留学生数の推移

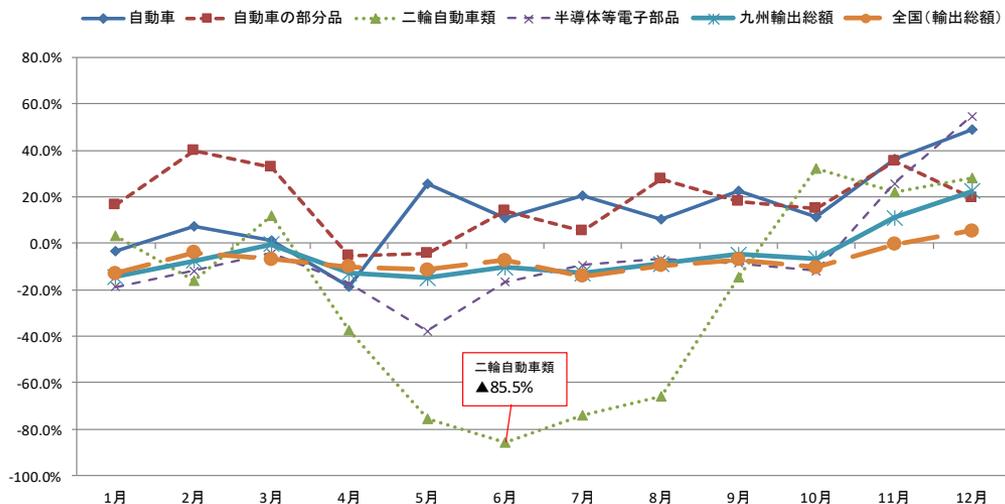


出所: 法務省入国管理局「平成29年における留学生の日本企業等への就職状況について」より九州経済産業局作成

【トピックス①】熊本地震の影響からの回復状況（輸出動向）

- 2016年4月中旬に発生した熊本地震による九州の輸出動向への影響について、主要品目（自動車、自動車の部部品、二輪自動車、半導体等電子部品）別輸出額の前年同月比をみると、地震が発生した4月は、主要品目すべて減少し、翌5月は、半導体等電子部品及び二輪自動車類は減少幅が拡大した。さらに、二輪自動車においては、6月には▲85.5%減を記録した。一方、九州輸出総額をみると、4月以降減少が続き、11月ようやく増加に転じた。
- 主要品目及び九州輸出総額について、地震の発生前の2015年と発生後の2017年を比べてみると、2017年の主要品目及び九州輸出総額ともに輸出額が10%以上上回った。特に、九州における生産拠点が被災した二輪自動車類については、2016年は前年比14.4%減となったが、2017年は2015年比18.2%と増加した。

九州の輸出総額及び品目別輸出額の前年同月比推移（2016年）



←出所：財務省「貿易統計」より ↓
九州経済産業局作成

九州の輸出総額及び品目別輸出額の推移

単位：億円

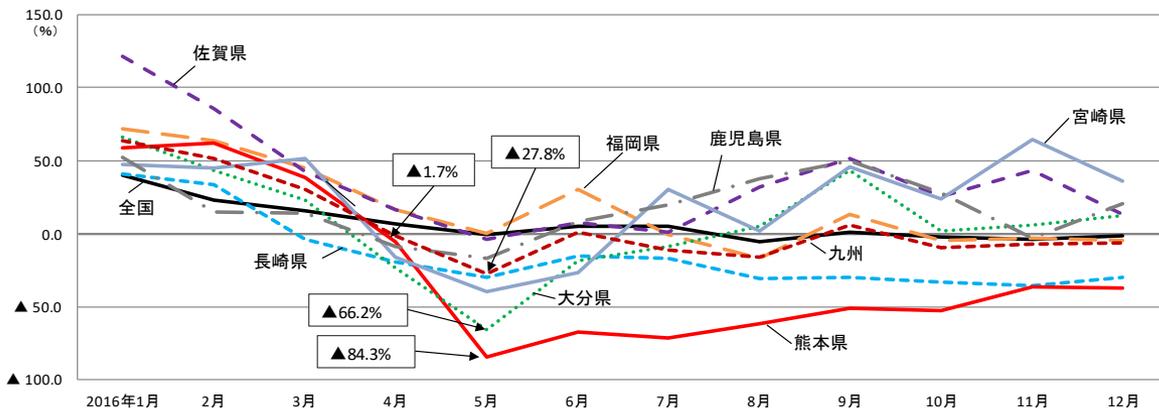
品目	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2015-2017比
自動車	9,874	9,888	10,196	10,056	10,513	11,549	13,346	17,006	47.3%
自動車の部分品	372	353	438	450	452	457	536	613	34.1%
二輪自動車類	714	784	872	766	923	736	630	870	18.2%
半導体等電子部品	3,600	3,898	4,730	5,030	5,989	7,039	6,581	8,360	18.8%
九州輸出総額	51,941	52,281	51,726	56,203	57,719	59,566	56,548	68,410	14.8%
全国輸出総額	673,996	655,465	637,476	697,742	730,930	756,139	700,358	782,865	3.5%

【トピックス②】熊本地震の影響からの回復状況(観光関連)

○2016年4月の熊本地震の影響について、外国人延べ宿泊者数の前年同月比をみると、九州は地震発生月の4月(▲1.7%)、翌5月(▲27.8%)と減少した。特に5月は熊本県が▲84.3%、大分県が▲66.2%と大きく落ち込んだ。

○外国人延べ宿泊者数について、地震の発生前の2015年と発生後の2017年を比べてみると、熊本県は13.0%、大分県は79.2%と増加した。また、九州全体でも35.9%と増加した。

九州における各県別外国人延べ宿泊者数対前年同月比(※)の推移



九州における各県別外国人延べ宿泊者数の年間推移

単位:人泊

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2015-2017比
全国	18,415,690	26,314,340	33,495,730	44,824,600	65,614,600	69,388,940	79,690,590	21.5%
前年比	-	42.9%	27.3%	33.8%	46.4%	5.8%	14.8%	-
福岡県	604,160	758,730	900,040	1,357,300	2,359,700	2,674,110	3,112,070	31.9%
前年比	-	25.6%	18.6%	50.8%	73.9%	13.3%	16.4%	-
佐賀県	36,860	40,960	55,550	90,940	191,120	249,640	385,250	101.6%
前年比	-	11.1%	35.6%	63.7%	110.2%	30.6%	54.3%	-
長崎県	276,810	418,820	424,980	492,510	872,190	725,420	779,250	▲10.7%
前年比	-	51.3%	1.5%	15.9%	77.1%	▲16.8%	7.4%	-
熊本県	250,390	325,910	421,320	475,400	714,720	518,730	807,750	13.0%
前年比	-	30.2%	29.3%	12.8%	50.3%	▲27.4%	55.7%	-
大分県	358,860	310,320	409,640	400,400	773,990	827,010	1,386,930	79.2%
前年比	-	▲13.5%	32.0%	▲2.3%	93.3%	6.9%	67.7%	-
宮崎県	41,980	153,230	136,990	161,020	201,880	245,180	296,670	47.0%
前年比	-	265.0%	▲10.6%	17.5%	25.4%	21.4%	21.0%	-
鹿児島県	92,890	170,570	214,810	266,000	415,730	480,920	744,180	79.0%
前年比	-	83.6%	25.9%	23.8%	56.3%	15.7%	54.7%	-
九州計	1,661,950	2,178,540	2,563,330	3,243,570	5,529,330	5,721,010	7,512,100	35.9%
前年比	-	31.1%	17.7%	26.5%	70.5%	3.5%	31.3%	-

出所:観光庁「宿泊旅行統計調査結果」より
九州経済産業局作成